NANGOKUNANGOKUNANGOKU

特定非営利活動法人

VOL.50

南国暮らしの会

2011年　新年号　(創刊50号記念)

平成23年1月8日

NPO法人　南国暮らしの会

登録第4810100号
(REGISTRATION NUMBER)

NANGOKUNANGOKUNANGOKU

南国暮らしの会

2011年 新年号 （創刊50号記念）

目　次

	（敬称略）	ページ
新年のご挨拶	No. 732　馬場　章介	1
創刊号特集		
創刊号表紙		3
創刊 50 号		4
想起する南の会発足前夜	元会員（熱海市在住）西田　忠正様	7
会報 Vol.５０の發刊記念を祝して	No. 3　池田徳三郎	10
各国のリタイアメントビザ最新情報		
マレーシア　マイセカンドホーム　プログラムの内容と費用	No. 495　石原彰太郎	17
フィリピンのリタイアメントビザ	No.1269　岩崎　宏	20
タイ		22
私たちのビザ	No.1053　加藤　新平	22
台湾		24
オーストラリア		24
ニュージーランド		25
インドネシア（バリ）		25
リタイアメントビザがある他の国		26
会員からの投稿		
酒匂さんの異国での喜寿のお祝い会	No. 900　島林　健二	27
南米の旅③（パタゴニア編）	No. 40　平澤　信	28
支 部 便 り		
チェンマイ支部便り	No. 54　山口　洋二	39
マニラ支部便り	No.1269　岩崎　宏	40
バギオ・パンガシナン支部便り	No. 227　斎木　一	40
ハワイ支部便り	No. 712　高田　勝弘	41
関西支部便り	No. 891　徳永　卓雄	41
東海支部新年号・支部便り	No. 543　清水　重一	43
関東甲信越支部便り	No.1125　佐々木一信	43
北海道支部便り	No.1009　佐藤　治己	44
部会伝言板		45
友好団体紹介コーナー		46
編集後記		46
南国暮らしの会　支部一覧		47
写真提供		47
平成 23 年度会費納入のご案内		48

新年のご挨拶

南国暮らしの会 理事長　№732　馬場 章介

新年明けましておめでとうございます。

会員およびご家族の皆様にはお元気で新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。東京のスカイツリー建設も５００メートルを超えて完成の６３４メートルまでの高さまであと一息になりました。今年はテレビ放送の地上デジタル放送の開始とともに新しい歴史のスタートになりますね。

南の会も一昨年はNPO法人認証十周年を迎え各支部では楽しいイベントを開催し十周年を記念して全員でお祝いをしましたが、昨年は理事、役員、支部長におかれましては任期満了にともない大幅に新しい方々に会の運営のお世話役として就任していただきました。そして、昨年は前任者のご協力を得て事務引継ぎも順調に行われ、その結果南の会も新しい体制が整い、各支部の運営におきましても、新しい会員の方を中心に多くの方々に役員として会のお世話としてご活躍いただいておりますことにも心より感謝申し上げます。

おかげさまで会員の皆様の暖かいご理解ご協力をいただきまして無事１１年目の歴史を刻むことができました。

さらに、会報発行におきましても今回の新年号で記念すべき５０号目を迎えることができました。これも偏に会報部会の皆様を中心にたくさんの方々のご尽力、ご苦労、そして投稿いただきました方々のご協力の賜物と重ねて感謝申し上げますとお供に、お祝い申し上げます。

ところで、昨年の日本を振り返りますと夏の異常な猛暑とか中国やロシアとの領土問題とか、税金の無駄使いや検察庁の不祥事等ネガティブなニュースが多くありました。

しかし、南の会の皆様におかれましては円高というフォローの風もあり積極的に海外ロングステイをエンジョイされている様子がMLやサロン会の情報交換で見受けられました。さらに、LSでお世話になっている現地の方々に対する「小さなお世話や交流」＝（子供たちの教育支援や災害被災者に対する義援活動や戦没者の慰霊祭への参加、タイ国向けの使い古しのストッキングの提供、等）のポジティブなニュースもたくさん見受けられました。これからも我々は海外でのLSを楽しむことと同時にその国にお世話になっていることに感謝し、「現地の人々との交流と、何かできることをお世話する」ことを心掛けていきたいと思います。

最後になりますが、今年も各支部では「楽しく、仲良く、LSの情報交換」をスローガンに、サロン会やLSを楽しんでいただき、会員同士の親睦がさらい深まりますことを心より願っております。そして皆様のご健勝と会の益々の発展を祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

会員からの投稿写真

バリ島 サテ（インドネシア風焼鳥）の露天商

ロンボク島 タンジュアンビーチ

バリ島 サヌールビーチに上る魚

現在のスカイツリー

バリ島 ブサキ寺院

波照間島 八重山民謡を唄う島民

南国暮らし夢の会

会報

創刊号

平成１０年２月１日

創　　刊　　50　　号

この表紙は平成１０年２月１日に発行された、会報創刊号です。当時の会長、（故）竹内司氏、NPO法人化初代理事長＃３池田徳三郎氏、事務局長＃２４酒匂景輝氏ご夫妻、そしてOBの西田忠正氏等が昼夜、熱く燃えて会の運営を語り会報の創刊に尽力されました。当時の会報を見ますと、役員が印刷から製本まで全て手作りでした。

今号がVOL ５０と、なりました。池田氏から、創刊から現在までの会報の変遷を投稿していただき、OBの西田忠正氏からは当時の思い出等貴重な寄稿をお願い致しました。西田氏は当時サンケイ新聞社に勤めており、そこに竹内氏のフィリピンでの生活が紹介されたことが「南国暮らし夢の会」（南の会）発足の切っ掛けになりました。

西田氏の寄稿文にある、ご本人が遠慮してＳ社と書いてありますのは、サンケイ新聞のことです。

この素晴らしい会と会報を育てていただいた、先輩諸氏に心から感謝申し上げます。

南国暮らしの会　理事長　馬　場　章　介
会　報　部　会

ダバオ

ベトナム　世界遺産ホイアンの街並み

☆創刊号から抜萃

1998年1月16日

「南国暮らし夢の会」発足のご挨拶

会長 竹内 司

素晴らしい新年をお迎えの事と存じます。私たちの呼びかけに対し、南国暮らしに賛同される方が増えて喜んでいます。“老後は暖かい南の国に住もう”私の提唱記事が産経新聞に掲載されたのが発端で会の発足となりました。素晴らしいフィリピンについて本会はその長短をお知らせして皆様の夢を育てて参りたいと思います。

南国暮らし夢の会 通称【南の会(みなみかい)】の発起人会を1月11日に開催し、本会発足の段取りとなりました。会の目的は南国暮らし（特にフィリピン）をどの様にすれば有意義に出来るかを、勉強しお互いの情報交換の場とします。

なお会の運営（事務・通信費）は会員から会費1ヵ年¥1,000- を拠出して頂き賄う事にしました。但し例会等の費用（会場費や経費等）は受益者負担の原則で出席者で負担する事にしました。なお例会の模様は会報などで報告致します。 発起人会で本会会則案を審議して頂き1部修正の上会則も承認されました。

南の国に暮らして5年至極満足した生活を送っています。が 唯一つの反省は外貨預金金利収入を考えるべきであった事です。利子は毎月変動しこの97年12月は年利19%（ペソ預金の通常金利は10%前後）になりました。利子も毎月受け取れるシステムで、とても現在の日本では考えられないことです。

ペソ（フィリピン通貨）も現在相場が下がり（対ドル・円）外国人に有利に動いています。

フィリピンの人々は先天的に陽気で優しく、父母を尊び、年長者に対する尊敬の念、弱者を思いやる心で、偏見など全くありません。それに安い人手が豊富で、老後はこの国ほど適した国はありません。

会員の森川様から先日嬉しい便りが届きました。カナダに移住先を予定していたが、先進国は全てに充実していて「奉仕」の対象が見当たらないとの声でした。 外国にお世話になりながら、地域の人に喜ばれる日本語教師や竹細工などを予定していたそうです。

私も薬草栽培に挑戦し、今年から日本の種苗会社に輸出が決まりました。“のほほん”とした生活の中に生き甲斐を見付けて行くのも大切な生き方ではないでしょうか。

私の家に体験滞在された方々は二つの事に驚かれます。一つは素晴らしい環境、もう一つはリゾート地の土地価格が高過ぎる事です。お呼びしておいて現実離れした失礼が起きました。“老後は暖かい南の国に住もう”の提唱だけでは不十分と責任を痛感し、私の家に似た環境で安い土地探しから始め「日本人村」構想も具体化に動き始めました。

☆創刊号から抜萃

日本人村構想は著名な堀田 力（つとむ）先生が理事長の「さわやか福祉財団」に相談しアドバイスを受けました。日本人村を支援する地元の互助会が必要なこと。日本人はワーッと燃え上がるが、いざ決断の時になると辞退者が出る事、南国暮らしを唱えるならば具体的な物件と価格を打ち出した方が良い。

今後は多くの団体に呼び掛けＰＲして会員を集めること、と　ご指導を頂きました。

日本人村については本会で紹介はさせて頂きますが、参画者を募り別組織で運営する事にしました。

具体案については４月の例会で概要の説明が出来るよう準備を進めています。

皆様がお元気で幸せな良い１年でありますように祈念しまして、会の発足のご挨拶とさせて頂きます。　以上

§ ＰＲＡ（フィリピン退職庁）とは

フィリピン政府は１９８５年7月、大統領令１０３７条により、フィリピン退職庁（PHILIPPINE RETIREMENT AUTHORITY=通称ＰＲＡ）を発足させ、外国の退職者を積極的に受け入れています。

ＰＲＡが実施している退職生活プログラムに参加することにより、無期限数次入国が可能な永久非移民居住資格が与えられる「特別居住退職ビザ」が取得出来ます。このビザを１度取得されれば、フィリピンにおける出国許可や再入国許可の申請は不要です。

※本プログラムに参加するための資格及び条件等

◆35歳以上の健康で犯罪歴のない方

◆50歳以上の方は50,000USドル、35歳以上から49歳までの方は75,000USドルを、ＰＲＡが指定する自分名義の銀行口座に６か月間の定期預金をする。この定期預金については、ＰＲＡが認めたマンションやコンドミニアムなどの購入を含めた投資に転換する事が可能である。また引き続き外貨の定期預金をする場合は、この利子には非課税となる。

◆その他の特典は、7,000US ドル相当の家財道具などの輸入関税は原則として免除される。中央銀行の規則に従う事で投資預金等の再送金の保証がある。

◆本プログラム申込用紙に必要書類を添付してフィリピン本国のＰＲＡに申し込む。

◆入会手数料（35歳から49歳までの方は2,000 USドル、50歳以上の方は 1,500USドル）及び移民局への資格取得にかかる経費（2,170 ペソ×帯同する扶養家族）が必要。

◆特別居住退職ビザの取得手続きは、上記指定銀行口座に定期預金をした時点で、フィリピン本国に10～14日程度滞在（扶養家族は後着でもよい）してＰＲＡに取得手続きをする事が出来る。

☆この様なフィリピン政府の優遇政策を、恒久的制度化のために退職ビザ取得者（フィリピン居住外国人）を中心にＰＲＡ財団なる団体が組織されています。　1998.1.16

想起する南の会発足前夜

元会員　静岡県熱海市在住　西田　忠正

呼び水は新聞の投書欄

「定年後は気候温暖で、物価が安い南国で暮らしてみませんか」―。南国暮らしの会は１９９７年２月､こんな見出しの日刊Ｓ紙の「投書欄」が直接の呼び水となり、翌年、親睦・情報交換の場として発足しました。呼びかけたのは当時フィリピンのマニラ市近郊で悠々自適のリゾート暮らしを楽しんでいた故竹内　司氏。竹内氏は当時６５歳。現役引退後４年で、のちの任意組織「南の会」の初代会長でした。

竹内氏がＳ紙に投稿したのは行きつけのマニラ市内の和食レストランの片隅に置いてあったのがたまたま同紙だったからという、ごく単純な動機だったそうです。しかし、その反響は予想以上に大きく、竹内邸の日本からの国際電話は掲載直後からしばらく鳴り続いたようです。簡潔な要旨なので､改めて全文をご紹介します。

竹内氏の熱い想い

《植物では珍しい色をした、ヒスイカズラの青い花房が垂れて妻の驚きの声が庭に響いた。ここは日本から少し離れた南洋の国である。日本で過ごした過去の人生は、花さえも目に入らない企業戦士の日々であった。定年になったら海外で過ごそうと思った。そのために英会話も努力して身に付けた。

ここフィリピンに移り住んでもう４年たつ。物価が安いのも年金族には魅力である。妻も家事労働から解放された。日本から近いので旅費も安く､家族も孫たちも気楽に来てくれるので、昔の移民のような悲壮感はない。極楽の世界である庭先で太陽の花たちを育て、洋ランも集め勉強中である｡今年は薬草の栽培も始めたいし、盆栽もやってみたい。

しかし、残念ながら教えてくれる日本の先輩がいないのです。私の家にはホテル仕様の客室が数室あります。すでにリタイアした方で、ランや植物の趣味を持たれ、海外生活を体験したいと考えておられる方がいらしたら、ご連絡ください》

別途、竹内氏はラジオ・キー局のＢ放送制作で同年９月、評論家竹村健一氏がホスト役のトーク番組にゲストとして招かれ、リスナーに同様の思いを語りかけました｡これと相前後して、竹内氏は複数の月刊・季刊の新興誌類に売り込んだり、毎夜半になると、趣味の無線で未知の人たちに定年後の人生の過ごし方を提案していたそうです。

私は先に会報編集委員会から当会設立当初の模様を紹介してほしいとの知らせを受けました。そこで、当時の関係者の一人として思いつくままをご報告します。

５０人から問い合わせ

定年直前の私はそのころＳ社読者サービス室の窓際で、個々の読者の、電話による紙面への反響や問い合わせ、批判、苦情等に対応していました。当時のスタッフは約１０人。外部からの電話は毎日すべて記録に残し、編集局の全体会議や担当部署に詳細報告、紙面改善に役立てるセクションです。

通常、紙面への反応は掲載当日だけとは限らず、インパクトがあれば断続的に何週間も続きます。また、時には数年前から何十年も昔の記事のコピーがほしいが、どうしたらいいかとの問い合わせもあるのです。

全国の主要新聞社では現在そういう古い報道の問い合わせに関しても明確なキーワードが分かっていれば即応できます。紙面の保存と管理がマイクロフィルムから電算機によりデータベース化されたからです。仕組みはグーグルの「ウィキペディア」とほぼ同じ。つまり、何件かのキーワードを入れると、日付と見出しが表示され、そこをさらにクリックすると当該記事が表示されます。先述した竹内氏の投稿もこうして引き出されました。

同氏の投稿で記憶に残るのは掲載当日から２～３週間は電話が継続的にかかってきた事でした。その大部分は直接連絡してコンタクトしたいとの質問。東京本社印刷分だけで延べ５０件

ほどには上ったと記憶しています。

一般紙の投書欄で読者の関心が高いのはいつの時代でも内外の政治、経済の時局問題絡みや社会情勢はもちろん、身辺雑事を巡る個人的な発言や提言です。これら投書の中で最近特に紙面が割かれているのは高齢化社会の到来に伴う世相や暮らし方、医療問題だろうと思われます。竹内氏の投書に関してもＳ紙が毎月数回予めテーマを設定して募集する「高齢化社会」に沿う内容でした。新聞の投書欄は読者の声を新聞社側が勝手に加工することなく、直接伝達できる世相の鏡です。

とは言え、個別の投書への反応はそんなに多くなく、１０件以上に及ぶことは滅多にありません。発行部数の多寡はありますが、投書欄に関しては他の一般紙でも同様の傾向かと推測されます。

そんな経緯から、私は実際に南国暮らしを体験してみたいと思い立ち、同年１０月、竹内氏に直接コンタクトしました。ほぼ同じ頃接触したのが当南の会の初代事務局長で、ＮＰＯ法人資格取得後の第２代理事長の酒匂景輝氏。酒匂氏はラジオのＢ放送を聞いて問い合わせたという話でした。

私達は竹内氏のマッチングにより成田から約１週間、ともに妻同行で南国暮らしを体験しました。ついでながら、マニラへの往路で偶然乗り合わせたのがＮＰＯ法人初代理事長の池田徳三郎氏でした。

帰国後、私はＳ紙上で改めて現地での体験談をレポートしましたが、電話での反応は竹内氏の投稿に遠く及ばず、半数以下の２０件程度にとどまりました。読者の反応は掲載面やスペース幅を問いません。私のレポート約１３０行に比べ竹内氏の投書は４０行弱。しかし、竹内氏の方がはるかにアピールしました。

千客万来の竹内邸と宿帳

竹内邸に滞在中、最も記憶に残るのは披露された大学ノートの“宿帳”です。宿帳への書き込みは竹内氏の投書以来わずか２、３カ月後の同年５、６月から始まっていました。私達以前に既に２０カップルほどが訪問、さまざまな謝意や感想でびっしり埋められていました。一組の平均滞在を１週間とすると、１カ月当たり３組ずつのハイペースです。

私はこの千客万来の宿帳を見てハッと直感しました。「竹内邸が招いた皆さんに提案して、お互いの情報交換の場を設けたら、すぐ組織化できる。組織化したら、交流の場は全国規模でさらに拡大できる」と確信し、両氏に呼びかけました。もとより、両氏からは即座に賛同を得ました。

半年後に組織起ち上げ

私達はすぐ組織の受け皿づくりに着手、3ヶ月後の翌年１月には南の会の設立発起人会、さらに3ヶ月後の４月には設立総会と懇親会を開くという具合で、順調に滑り出しました。

初総会時の参加者は約６０人。うち年会費千円を払い、メンバーとしてご参加いただいたのは50人ほど。残り10人ほどは竹内氏の“私設応援団”とも呼ぶべき友人、知人だったと思われます。

熱帯原色の花々と果樹

フィリピン有数の広大な高級リゾート地に構える竹内邸。南北方向に縦断する道路は１０キロメートル以上はあり、出入り口の“関所”も24時間態勢でチェック、厳重なセキュリティ対策が講じられていました。

そこはマニラ首都圏から湾岸沿いに車で約２時間。対岸は太平洋戦争で、日本軍による米軍捕虜の死の行進として未だに国際的な批判を浴びて語り継がれる、あのパターン半島と対面していました。しかし、邸宅の直ぐ前面にはゴルフ場のグリーンが１８０度の視覚で眺望でき、その遠方にはマニラ湾の夕日が望めるという借景もこの上ない好立地。

邸内も１万平方メートルはあろうかと思われる敷地内で高級リゾートには必須条件のプール。さらに、フェンスで囲まれた建物の周囲は熱帯特有の原色の花々が鮮やかに咲き競い、マンゴーやバナナなど熱帯の果物もいっぱい実ってい

ました。日常の生活は住み込みの女性ヘルパーさんと、ガーデンボーイと呼ぶ何でも屋さんが１人ずつ。

ほかに竹内邸では書生のような形で現地の若い女性２、３人が共同生活していました。竹内氏はこの国の失業率が高いので彼女らの生活を支援しながら日系企業への就職を支援していると話していました。それでも、購入費は物価水準が違うので土地と２階建て建物ともで約５０００万円、毎月の生活費は３０万円程度ですむと竹内氏からは聞きました。

それやこれやで、私には当時の日本からの訪問者が竹内邸で自らの南国暮らしを重ね合わせて、熱く宿帳を綴ったのだろうと推測すると納得できました。

ＮＰＯ法人で再スタート

南の会は正式スタート後、竹内氏が現地情報を発信しながら、国内の組織づくりは事務局長の酒匂氏と、やがてＮＰＯ法人の初代理事長に就任する池田氏のコンビでほとんど推進されていきました。

発足直後の酒匂氏は急増する会員を一人ずつ受けつけながら、国内だけでなく、いち早く海外でもきめ細かに支部づくりを展開、会員は急速に増加しました。また設立総会前の１９９８年２月には早くも会報第一号を発行、会計や広報、総務、その他の雑務もほとんど引き受けていました。

とりわけ、会報づくりは当初の数年間、執筆者の依頼からデスクワーク、整理、校正までの雑誌づくりの編集工程だけでなく、印刷所への発注や会員個々の発送作業までお一人で奔走されていました。会報の中でいち早く、滞在先での医療事情の重要性に着目して特集記事を組み始めたのは酒匂氏の慧眼でした。当時の酒匂氏には１年を通して週末も何もなかったと思われます。

一方、池田氏は設立２年目の１９９９年、当会の特定非営利活動（ＮＰＯ）の法人取得を目指して全力投球されていました。申請書提出から登記終了までは約半年間。手続き中の途中経過だったと思われますが、池田氏からは申請先の東京都との交渉だけで既に２０回近く出向いたと聞きました。

侃々諤々の論争も

ＮＰＯ法人として再スタートした南国暮らしの会は設立目的を情報交換と親睦の場とすることで明確に方向づけしましたが、初期のころは海外支部の方々からメンバーと称して突然飛び込みで訪問されるとか、滞在先での会員同士間のトラブルも発生すると仄聞しました。また、各国での不動産の取扱いなど、一部ではカンカンガクガクの論争もありました。

私が南の会に携わったのは最初の３、４年程度。その後は定年に伴い、首都圏から現在の熱海市内に転居したので、皆さま方とは疎遠になってしまいました。ですから、私は当会の設立前後偶然そこに居合わせた、ただの言い出しっぺの１人にすぎず、酒匂―池田の両氏のご活動がなければ当会は存続していなかったと思います。

ここで御報告したのは当時の出来事のほんの一コマです。その後の歩みは２００９年秋季の当誌「創立１０周年記念特集号」で、現相談役の宮嵜哲郎氏が執筆されている通りです。

南の会スタート時の世相はバブル崩壊後２０年間に及ぶ日本経済の空白期に突入したまま、高齢化時代の老後問題も深刻化しつつありました。私はこれら不透明な時代背景を先読みするかのように、定年退職前後の皆さんが既にこんなにも熱い眼差しを海外に向け、新しい潮流が発生しているという事実を改めて実感しました。

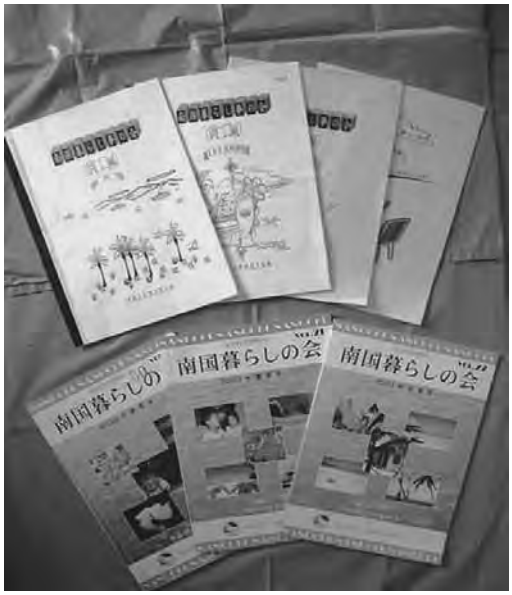
会報 Vol.５０の發刊記念を祝して

九州支部　No.3　池田　徳三郎

１．はじめに

この度、当会の機関誌ＮＰＯ法人「南国暮らしの会」の Vol.50 が新春に刊行する運びとなりました事は誠におめでたい限りで、心からお喜び申し上げます。

Vol.50 という記念すべき節目を迎えお祝いすることが出来ますは、会報の重要性に鑑み誠に感無量の思いであります。これも偏に歴代の広報担当者ないし会報担当者の多大な創意工夫とご努力、深甚なご尽力の賜物であり、会員の並々ならない大なる期待と絶大な力強いエールがあったお蔭でしょう。



１．上段左から創刊号と Vol. 2（表紙白色、創刊号～Vol. 3 の表紙白色）
２．上段左３冊から Vol. 4 ～ Vol.19　表紙グリーン色
３．下段 Vol.20 ～ Vol.49　表紙カラー写真（左下マーク）

なにごとも節目があり、人生にも様々な節目がありますが､その代表的な節目の例は通過儀礼でしょう。

出産（誕生日)･初宮、誕生日、七五三の祝い、入学式（幼･小･中･高･大）卒業式、成人式（元服)、就職、結婚〔銀婚、真珠婚、金婚〕、退職（隠居)、長寿（還暦、古希、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿）神教、佛教、道教、その他の宗教の行事にもそれぞれの節目があります。

２．当会の節目

当会も代表的５周年の節目（2004 年)、１０周年の節目（2009 年）にそれぞれの記念事業が既に行われました。

１）法人設立５周年の節目と会報

以前から、少ない予算の中から事業拡張準備金の充実に努めてきましたが､「法人設立５周年記念実行委員会」が設置されました。そして市東昭義委員長が選ばれ、会員からの提案も含め具体的計画が数々立案され、理事会の承認を得て、多くの困難を克服して実行されました。

① 会のシンボルマーク（注）をカラーにし、そしてマークの配色等を決定した。
② カラーの会旗を作成し、支部にも支部のカラー旗を作成し、各支部に配布する。
③ 会員証の無料配布（シンボルマーク入りの会員用のネックストラップを作成し、会員に配布する)。
④ シンボルマークの商標登録(15 年 10 月 24 日)
⑤ 海外暮らし便利帳「医療編特集」、５周年別冊の發刊（3 カ国語対訳・診療対話集）
　編集担当　平尾守満氏ほか
⑥ 会報に５周年特集号を編集
⑦ 支部の充実、その他

２）設立１０周年の節目と会報

「創立１０周年記念特集号」は、東南アジア各国から、そして友好団体からのご祝辞、海外支部からのお役立ち情報と、海外旅行に欠かせない海外の医療について労作「医療編」特集を、その他が掲載されました。

NPO 法人として認証されてから平成 21 年 10 月に１０周年を迎え､当時の理事長高田勝弘氏は、会報（Vol.46）で次の**４つの記念事業**を發表し、各支部等においても実施されました。

①会員全員にマーク入りのＴシャツの無料配布
②**会報１０周年特集号の發行**（2009 年秋季号 Ｖ０１．４６、編集委員は 10 名から構成され、内容豊富な会報最大のページ数 103 ページ）
③各支部での１０周年記念の開催
④南の会　お役たち情報 CD の無料配布

３．会報の節目（歩み）

―創刊号　發刊の背景―

会の創立を何時からと考えるかは色々の意見がありましたが､その創生期に少し触れましょう。

ﾌｨﾘﾋﾟﾝのマニラの北に、事業を息子に譲り、優雅に住んでおられた竹内司氏が「退職後はﾌｨﾘﾋﾟﾝで楽しい生活を」をモットーに日本人向けに平成９年頃から雑誌・新聞・無線で呼びかけており、平成９年９月に竹内氏の呼びかけが、ラジオで放送され､更に多くの人の知るところとなりました。

西田氏（当時定年前の産経新聞記者）その他の人々が現地マニラ近郊の竹内邸を訪れましたが、マニラ行きの飛行機のなかで、著者も西田氏に誘われ、後刻、竹内邸で西田氏と合流し４～５時間ほど竹内邸とその周辺を訪問しました。

そして帰国後、産経新聞に「老後は暖かい南の国に住もう」の竹内氏の提案記事等が掲載されました。竹内氏の呼びかけで１１月１６日に「ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会」が横浜のレストラン（アリババ）で開催され､３２名が参加しました。そして、翌年の平成１０年１月１１日に「南国暮らし夢の会」の發起人会が開催されました。

４．会報　創刊号について

創刊号の發刊については、以下のａ）～ｅ）および②の目次から概要が伺えます。

ａ）竹内会長の「南国暮らし夢の会」發足のご挨拶､日本人村構想､ＰＲＡ（フイリピン退職庁）とは、 ＰＲＡの参加資格及び条件等

ｂ）南国暮らし夢の会　総会（４・２５）と懇親会に関する案内。

総会の議題は＊会則の審議、＊役員の選出、＊ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会「横浜セミナー」アンケートの質問に回答

ｃ）日本人村（マニラ）の概要説明、付近のスライド映写予定等々、ｄ）会員に情報公開、

ｅ）「ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会」の出席者名簿（横浜のレストラン　アリババ）２４組３２名

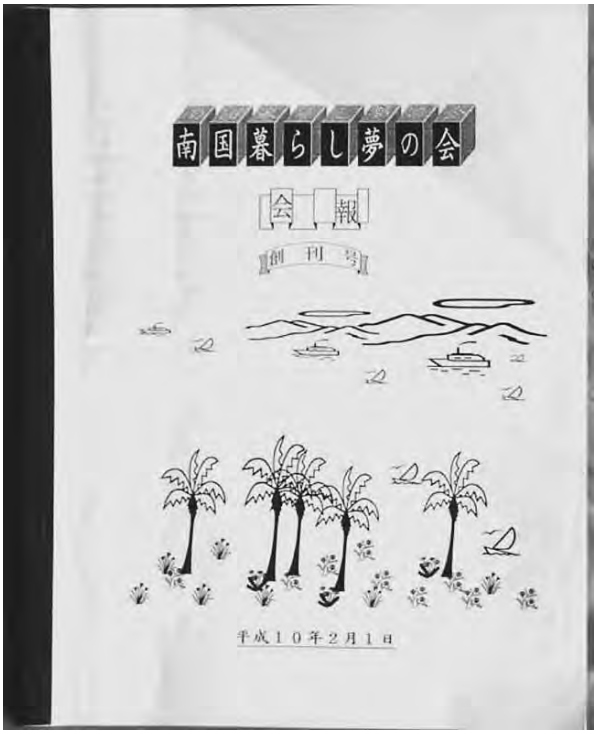
ｆ）ﾌｨﾘﾋﾟﾝに関する紹介、体験記、アンケート集計、情報で占められていました。

①創刊号の形式

Ａ４版、１８ページ、片面刷り、表紙（参照）

發行人　：酒匂景輝氏、

發行月日：平成 10 年２月１日、



注）南国暮らし夢の会　会報　　創刊号
平成 10 年２月１日　　表紙Ａ４版　白黒

②創刊号の目　次 ・・・・・・・・・・・・1
会長挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・2
ＰＲＡ（ﾌｨﾘﾋﾟﾝ退職庁）とは ・・・・・3
会報發行と送達案内・伝達事項 ・・・・4
南国暮らし夢の会　会則案 ・・・・・5～6
ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会「横浜セミナー」
　アンケート集計 ・・・・・・・・・・7～9
南国暮らし夢の会　総会と
懇親会案内 ・・・・・・・・・・・・・・10
ﾌｨﾘﾋﾟﾝ特集（ＪＡＬ機内誌の記事より）・・11～15
ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会「横浜セミナー」の
　出席者名簿・・・・・・・・・・・・16～17
ﾌｨﾘﾋﾟﾝを知る会「横浜セミナー」の
　会計報告 ・・・・・・・・・・・・・・・18
　あとがき ・・・・・・・・・・・・・・・18

創刊号の發行は酒匂氏ご夫妻のご努力の成果であり、その労作と言えるでしょう。

創刊号の重要性から、その収集は今でも、一部収集家の間で盛んに行われておりますが，なかでも大宅壮一文庫はその収集で有名です。

５．会報 Vol. ２について

Vol. ２は創刊号の発行から７ヶ月半の後にペ

ージ数も３８ページと倍増され、片面刷りから両面刷りとなり、会報の形式・ボリューム・内容共に一段と整備されてきました。

内容も＊ﾌｨﾘﾋﾟﾝに関する紹介、同体験記、同情報、ﾌｨﾘﾋﾟﾝ探訪ツアー計画書で占められた外に、＊第１回総会（臨時東京例会）の要旨，＊第１～４回役員会議事録、＊第２回総会案内（10月26日、大阪にて）その他が掲載されました。

発行番号（Vlo.）の決定

創刊号に次ぐ会報の連番をどのようにするかが研究の対象になり、会報の連番の議論がされ、そして古い伝統的な機関誌等から調査しました。

戦前のものは、第△△巻第 ++ 号、第△△輯、

戦後のものは、第△△号、第△△回、Ｎo.△△

その結果　世界に通用する機関誌の連番としてVOL.が採用され、Vol.2が発行されました。

会報Vol.２については①、②から概要が伺えます。

① 会報 Vol.2 の形式

「南国暮らし夢の会　会報」 1998　秋季号、

発行月日は平成10年９月１５日、 Ａ４版、

３８ページ、両面刷り

広報担当幹事；山之内、長谷川の各氏

②　会報 Vol.2 の目次

◇表　紙・・・・イラスト；長谷川登志郎氏

◇目　次・・・・・・・・・・・・・・・・・1

◇会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・2

◇秋季例会案内（10.25 大阪，議題，懇親会）・・３

◇アンケート集計（第２回）・・・・・・４～７

◇臨時東京例会（6.20）の情報公開の要旨 ・８～10

◇会員からの体験記　他の投稿・・・11～16

◇ﾌｨﾘﾋﾟﾝ最新情報・・・・・・・・・・17～23

（出所）伊藤忠商事　ﾌｨﾘﾋﾟﾝ工業団地開発関係資料

◇ﾌｨﾘﾋﾟﾝの現状・・・・・・・・・・・24～27

（出所）日本経済新聞　　ﾌｨﾘﾋﾟﾝ特集

◇ﾌｨﾘﾋﾟﾝ日本人居住地探訪ツアー案内 ・・28

◇会員動向（発足以降の入会者名簿）・・・29～31

◇収入と支出の集計 ・・・・・・・・・・・32

◇役員会　議事録・・・・・・・・・・33～37

◇事務局から・編集後記・・・・・・・・・38

そして**最初のﾌｨﾘﾋﾟﾝ・ツアー**が翌年の11年１月25日から２月７日まで（２週間）実現した。また「南国夢の村」の建設推進委員会（竹内会長以下計６名）が設立され、10年の11月から翌11年１月の間に現地視察をし、大激論の末、会は「南国夢の村」の建設に一切関係しない事となりました。

６．会報　Vol.　５の節目について

会報Vol.４から**表紙の色を変更**

会報の表紙は今までの白から「グリーン」に変わり、表紙のグリーンはVol.１９まで続きました。

会報Vol.４について簡単に触れます。

南国暮らし夢の会　会報　1999　秋季号

発行月日は平成１１年４月１日

Ａ４版、４１ページ、両面刷り

広報担当幹事；山之内、長谷川の各氏

Vol.５については、以下のａ）～ｃ）および①、②の目次からも概要が伺えます。

（ａ）Vol.５の**表紙に若干の変化**がありました。

ア）「南国暮らし夢の会」の４角文字の装飾が変わり、会報の文字を略した。（このVolのみ）

イ）　1999「春季総会要旨報告」と表紙に特記

（ｂ）　Vol.５は表紙の特記に示されるように「総会当日の様子」について２～２５ページと總紙面の約８割を割愛しており、その重要性を会員に周知し公開するとの趣旨でありましょう。

（ｃ）その余の紙面はﾌｨﾘﾋﾟﾝの記事１色です。

① 会報 Vol.５の形式

「南国暮らし夢の会」（1999 春季総会要旨報告、）

発行月日は平成１１年６月１日、Ａ４版、

３１ページ、両面刷り、広報担当幹事；酒匂氏

② 会報 Vol.５の目次

・表　紙・・・・・・・イラスト；鈴木　博

・目　次・・・・・・・・・・・・・・・・・1

・会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・2

・総会要旨他参考資料送付案内・・・・・・２

・11年度春季總会（11・５・８）要旨・・３～４

・「南国暮らし夢の会」会則（改訂）・・・５～７

・「南国暮らし夢の会」初年度会計報告（会計担当幹事西田忠正９年12月１日～11年３月31日）・８～９

・11年度春季例会報告（11・5・8）

９名の講演概要（ﾌｨﾘﾋﾟﾝに関する）・・・10～12

・同上総会・懇親会時の会計報告 ・・・・12

・ﾌｨﾘﾋﾟﾝ体験報告（稲延・布施・戸田・森川・高沢・鈴木・ﾌｨﾘﾋﾟﾝ政府発行）・・・・・・・13～25

・平成 10 年度アンケート集計　・・・・26 ～ 29
・ふくおか 5 人組みﾌｨﾘﾋﾟﾝを行く　・・・・30
・関西支部開設の運び（支部長大橋氏）・・30 ～ 31
・編集後記　・・・・・・・・・・・・・・・31

７．会報　Vol. 7の節目（会報名の変更）

（1）会報　Vol. 7から会報のタイトルが変わりました（南国暮らし夢の会→特定非営利活動法人南国暮らしの会）。その理由はNPO法人が認証され（1999年9月30日）、同年11月6日の総会にてNPO法人認証事項の再決議、予算、役員の選任等が決定され、1ヶ月後に、会報は發行されました。

そしてVol. 7（2000年　会報　新年号）**からVol. ４９までのタイトル**は特定非営利活動法人南国暮らしの会となりました。發行者は特定非営利活動法人南国暮らしの会　理事長　池田徳三郎と掲出され、以後發行者は歴代理事長名となり、会報編集委員名ないし担当者名が併記されました。

（2）今１つの特色は、一国（ﾌｨﾘﾋﾟﾝのみ）の情報からタイ・マレーシア情報へと広げ、①ﾌｨﾘﾋﾟﾝ　ツアーに次いで②マレーシア訪問の旅　案内（ツアー企画委員会）（注）が会報に発表され、6月に実施されました。併せ、マレーシア・ペナンの情報が掲示されました。

（注）翌年の会報新年号（Vol.11）には、調査担当理事から③タイランド、ロングステー調査体験ツアー　案内が会報に発表されました。

（3）有料広告の掲載　初めて掲載

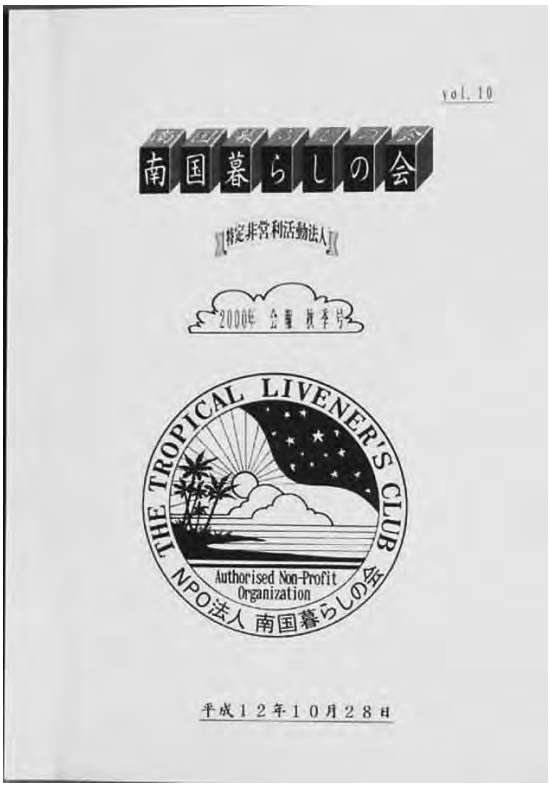
８．会報 Vol. １０の節目について

Vol. １０（2000年　会報　秋季号, 平成12年10月28日、A4版、47ページ）、その表紙は会のシンボルマークで大きく飾り、会のマークを始めて会の内外に公表しました。

会のシンボルマーク「ロゴマーク」は会で公募し、応募のなかから、①デザインと②英文・和文が採用され、両者の組み合わせが理事会で選定し、決定しました。（詳細はVol.１０　Ｐ２＆Ｐ４５参照）

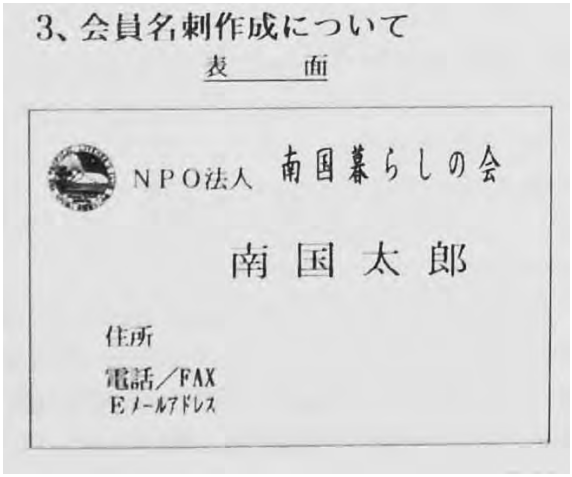
当初はモノクロでありましたが、このとき以降は、会が発行する各種の資料・会報・名刺等にシンボルマークを使用することになり、実際に使用してきました。

会報 Vol. １０　「シンボルマークの表紙」



注）会のシンボルマークを決め、内外に公表する
Vol. １０、Ａ４版、表紙グリーン、マーク白黒

会員の名刺には希望者に有料でシンボルマーク入りを印刷するようになりました。



注）シンボルマーク（白黒）の付いた名刺（白色）（会報Vol.10、Ｐ45参照）、その後カラーマークも可。

また会報表紙の右下のシンボルマークは当初は白黒でしたが、2005年の新年号「Vol. ２７」からカラーのシンボルマークとなり、会報表紙の下欄の法人名の頭に掲載されてきました。そし

て「創立 10 周年記念特集号 Vol.46」の会報の表紙は、「会のカラーのシンボルマーク」で飾られました。

会報　Vol.10 の目次は紙面の都合で省略しますが、その**概要**は①外国で住むため家に関する情報の要請があり、他方で、不動産（売買・賃借取引）のトラブル情報が多く、これに関する会の基本方針を決め、会報に掲載　②フイリピン情報５件　③マレーシア情報、タイ情報、北マリアナ連邦のロタ島情報、香港情報、東京情報交換会情報、④会員アンケート調査報告等　⑤伝言・掲示板　⑥支部・部会伝達版

９．会報　Vol. 20 の節目

Vol.20（2003 年　春季号、平成 15 年 4 月 26 日發行、78 ページ、表紙カラー写真）

Vol.20 の表紙が**カラー写真**で飾られることになりました。それ以降 49 号まで、それぞれ特色あるカラー写真入りの表紙は続いています。

編集担当者も 4 人の理事が担当し、A4 版、70 ページとその内容と共に充実してきました。

情報の収集もﾌｲﾘﾋﾟﾝから、タイ（バンコク、チェンマイ外)、マレーシア（ＫＬ,キャメラン ハィランド、ペナンその外)、カナダ、オストラリアのパーツ等と対象領域は、遥かに広くそして多く会報に掲載されるようになりました。

Vol. ２０に掲載の事業報告の抜粋から当時（平成 15 年頃）の会の概要が伺えます。

① ホームページの立ち上げ　②メーリングリストの交信　③支部の充実と広報活動を最優先の１つとし、関東支部の充実（情報交換会、サロン会を大崎労政会館へ)、関西・九州・甲信越支部の充実・東海支部の設立と５支部の發展　④広報活動として報道媒体に記事の掲載（日本経済新聞、中日新聞、朝日新聞、雑誌「アラタ、国際人交流、TV の放映」に勤め　⑤入会案内の更新などし、会員数も 400 名近く（15 年 3 月末決算で会員数 384 名）になり、その後も会員数は増加した。更に法人としての⑥会の組織・運営も整備され、活發化した成果が会報の記事にも掲載された。

Vol. ２０の目次

会報 Vol. ２０　と　Vol. １９

注）左　会報 Vol.20 ～現在までカラー写真
　　右　会報 Vol. 4 ～ 19 までグリーン色に黒刷り

・目　次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
・15 年度総会及び情報交換会・懇親会
　のご案内・・・・・・・・・・・・・・２～８
・関東支部情報交換会・講演要旨　（平尾守廣、古川典夫、高田豪州政府観光局長）・・９～ 14
・マレーシア特集（末英樹、木村義光・まゆみ、市東明義、加藤進、斉藤一の各氏）・・15 ～ 31
・その他の会員の投稿（斎木一、足立洋太郎、小川護雄、倉田敬吾、西田忠清各氏他）・32 ～ 59
・海外会員への心使い（宮嵜哲郎氏）・・60 ～ 61
・アンケートの集計報告（市東明義氏）・62 ～ 69
・伝言・掲示板・・・・・・・・・・・・・70 ～ 72
・支部・部会伝言版・・・・・・・・・・・73 ～ 78

Vol.25（2004 年夏季号、平成 16 年 7 月 24 日発行、58 ページ、A4 版、編集委員 4 人）

Vol.25 は当会初代の理事長池田徳三郎在任中の最後の会報記載であり、また前年に理事定員増その他の定款変更が監督官庁に承認され、理事の定員増が可能となり、総会時に増員となりました。①総会の案内・議案等の掲示。②理事の交代時期で、総会時に、酒匂景輝氏が新しく理事長に就任され、同会報に、酒匂理事長の就任と池田理事長の退任の挨拶が掲載されました。③多くの海外情報（12 名）及び支部・部会伝達版等が掲載されました。酒匂理事長は会の創生期から夫妻お揃いで活躍され、事務局長の職務上の地位で創刊号を編集されました。

１０．会報　Vol.30 の節目

Vol.30（2005 年　秋季号、平成 17 年 10 月 22 日發行、A4 版 63 ページ、表紙カラー写真）

会報の編集委員は 17 年度から 2 名増加し、理事等 6 名となりました。従来、原則 1 人が各 Vol. の担当責任者となり、他は協力することになりましたが、なお担当時には大変な激務でありました。

Vol.30 は（ａ）「女性特集」と題して、17 名の女性がそれぞれの立場から海外各国における滞在体験記事等を楽しく報告され、会報の紙面を飾っています。Vol.30 全体ページ数（63 ページ）の約７６％を占める大特集であり、今後の女性会員の更なる活動が期待される会報でありました。（ｂ）残りのページは東海・関東・関西・北海道・バギオ・チェンマイの支部便り等が掲載される。

Vol.33（2006 年夏季号、18 年 7 月 29 日發行、A4 版 63 ページ、表紙カラー写真、編集委員 5 名）

同会報の巻頭に、5 月の総会において信任されました宮崎新理事長の就任、酒匂理事長の退任のご挨拶が掲載され、また同總会で 2 人の会員が除名されました。そのため同年 9 月から 3 年に亘る裁判の原因となりました。

１１．会報　Vol. ４０の節目

Vol. ４０については、①および②からその概要が伺えます。

① 2008 年　春季号、平成 20 年 5 月 10 日発行、A4 版　71 ページ、表紙カラー写真

② その概要は（ａ）平成 20 年度の総会・懇親会の案内で、総会会場の案内、事業報告等の議案（ｂ）関東支部特集「市東関東支部長の活動報告及び計画」そして関東支部アンケート報告、関東支部同好会の紹介、関東支部会員 10 名の楽しい海外体験報告等（ｃ）一般投稿、（ｄ）支部便り、部会伝言版、写真コーナーほか。

目次等は省略します。

平成 20 年 6 月 8 日の総会で役員の新旧交代があり、理事長に高田勝弘氏が選任され、就任した。

Vol. ４１（2008 年夏季号、20 年 8 月 2 日發行）の巻頭には高田理事長の就任、宮嵜理事長の退任のご挨拶が掲載され、そして会報編集委員会委員は 9 名に増員され、同委員会が会報 Vol. ４１を担当すると掲載されました。

平成 18 年の 6 月に理事等で活躍された 2 人の会員を除名したが、除名が原因で起きた裁判（除名なかりせば訴訟なし）、会員のメール停止、一部会員・反対意見理事に対する除名推進理事等の、圧力があった時代も「除名無効」の地裁の第 1 審判決、そして控訴により、やっと高裁の和解が成立し平穏になりました。無駄な裁判費用を費やした時代も、南国メール第 1 とか第 2 とかのメール区分・制限の時代も 10 週年記念以前に終わりました。

「創立 10 周年記念特集号」Vol.46 の発行

平成２1 年の秋に 10 周年を迎え、高田理事長が記念事業を会報 Vol.46 に纏めて公表しましたことは既に触れたところです[前掲２.（２）を参照]。

Vol.46（2009 年　秋季号、副題　創立 10 周年記念特集号　21 年 10 月 24 日發行、A4 版 103 ページ、表紙シンボルマークカラー写真、保存版、編集委員１０名）再掲

Vol.49（2010 年夏・秋季号、22 年 8 月 29 日發行、A4 版 75 ページ、表紙スカイツリー　カラー写真、編集委員９名）

22 年 5 月 30 日の総会で一部理事等の交代が行われ、馬場理事長が誕生し、Vol.49 の巻頭は馬場理事長の就任、高田理事長の退任の挨拶が掲載されております。

その概要は（ａ）平成２２年度の総会案内、総会・支部長会・役員会議事録。22 年度役員業務分担表・委員の構成表（ｂ）台湾特集 , 一般投稿（ｃ）支部便りその他で構成されております。

(おわりに)

以上　会報のそれぞれの節目を時系列的にその主たる変遷と發展の流れを纏めてみましたが、紙面の都合上、言い尽くせないことが多く、不行き届きの点は何卒ご容赦のほどお願い申します。

会報の編集委員も会員番号 1000 番代が多くなり、新風と革新が期待されます。鳥瞰しますと、少ない会報予算で工夫された会報担当のご苦労が滲み出ており、唯頭を垂れ、感謝するのみです。

歴代編集委員の皆様「有難うございました」。

完

☆創刊号から抜萃

§フィリピンを知る会（横浜セミナー）会計報告

平成１０年1月１０日

事務局　酒匂景輝

（平成９年１１月１６日のフィリピンを知る会出席者のみ）

先日は「フィリピンを知る会」（南国暮らし夢の会の前身）に出席して頂き有難うございました。

その際の会計報告を致します。

報告が遅くなり申し訳ありませんでした。

1、収入；¥80,000-　（@2,500×32名）

2、支出；¥66,192-　（領収書を右にコピーしました）

3、残高；¥13,808-　一人当り:431-（13,808÷32=431.5）の残金があります。

4、残金の処分について、本会「南国暮らし夢の会」事務局として勝手ながら事後承認ですが本会の維持のため、今後の事務・通信費などに使わせて下さい。

＊残金の返却希望者は入会申込書の通信欄の返却希望項の返却希望に○で囲んで下さい。今回の会報などの経費を差し引き切手でお返し致します。　以上

毎度ありがとうございます。
またのご来店をお待ちしております。
ビアレストラン　アリババ
０４５－４４１－８７２０
日　時 1997/11/16 15:36
伝票2022

ランチドリンク	0	
ラガー小ジョッキ	22	9,240
ラガー中ジョッキ	10	5,800
海幸丼	32	44,160
横浜名物	8	3,840
小　計		63,040
消費税		3,152
合計		66.192
お預り		67.000
お　釣		808
ﾚｼｰﾄNo.0013251		32人

竹内淳一

§あとがき

素人の私が会報創刊号発行を担当することになり、現役時代は報告書等は良く書いたのですが、この様な会報は初めてなので、固さがなかなか抜けません。　読みづらい箇所が多々あると思いますが我慢して読んで下さい。兎に角今回は会報発行が出来たことを嘉として下さい。　次回からは会員の中にこの様な編集を手掛けられた方がいらっしゃると思いますので、その方のご協力を得て第２号以降はもっとスマートな会報を発行出来るものと期待しています。

「元気で前向きに楽しく長生きしよう」をモットーに、これからの皆様の生活が楽しく過ごせますよう、お互いに勉強し未来を明るい世にしたいものです。

表紙のイラストは、昨年フィリピンに旅した際のイメージが、私の脳裏に焼き付いていて少し賑やかな表現ですが、自分が育った頃の古郷を思い出すマニラ湾口の眺望や、のどかな音が聞えて来るような情景を、表現してみましたが感じは出ていますか。？？？

４月の例会で皆様の情報公開を楽しみにしています。

発行人：「南国暮らし夢の会」事務局　酒匂景輝（さこうかげてる）, TEL/FAX 048-752-1766

〒344-0004　埼玉県春日部市牛島1356-2

各国のリタイアメントビザ最新情報

マレーシア　マイセカンドホーム プログラムの内容と費用

ペナン支部　№495　石原　彰太郎

2010 年 11 月 30 日現在

マレーシア長期滞在のビザ：マレーシアは日本人がビザ無しで訪問しても自動的に 3 ヶ月の滞在許可をくれます。更に 3 ヶ月が切れる前に隣国のタイやシンガポールへ出て戻って来てもまた 3 ヶ月の滞在許可は出ます。6 ヶ月程度までの滞在では、下記に説明しますマレーシア　マイ　セカンドホーム　プログラム（略称：MM2H）は必要ありません。

MM2H とは？：10 年間滞在出来る長期滞在ビザで更新も可能です。正式には、出入国制限無しの社交訪問パス（Social Visit Pass with multi-entry permit）になります。永住権とは違いますが、永久的に住める権利を得るビザとも言えます。

１．MM2H 申請の条件：　年齢制限はありません。但し 50 歳以上と以下で申請条件に違いがあります。

１）５０歳以上の申請：単身、夫婦に関わらず

第一ステップ：マレーシアでの生活費を証明する為に、金融資産残高証明と、毎月の収入証明の提出が必要です。

金融資産残高証明：ＲＭ 350,000 以上（現在 RM=27 円、約 945 万円）

毎月の収入：ＲＭ 10,000（約 27 万円）以上

注１）月々の収入がＲＭ 10,000 以上の日本円相当額以上に満たない場合でも申請可能ですが、その分金融資産残高がＲＭ 350, 000 以上に必要です。収入の多い、現役の時の方が申請し易いとも言えます。

注２）金融資産には、株式、信託、不動産収入などを含めることも可能です。

第二ステップ：日本での所得証明または、定期預金で申請します。

①定期預金で申請の場合：

＊単身、夫婦にかかわらず、マレーシアの銀行にＲＭ 150,000（約 405 万円）の定期預金をします。（上記第一ステップの RM350,000 の金融資産の中に RM150,000 は含まれます）

注）　定期預金は、１年後に不動産を購入する又は、子女教育、医療費の目的があれば解約可能です。但しＲＭ 100,000　は滞在中の保証金として定期預金を続けることが必要です。

注）　ビザをキャンセルした場合は、もちろん預金の全額を解約する事ができます。

②　収入証明で申請の場合：

毎月の収入がＲＭ 10,000（約 27 万円）以上を証明することが必要です。ご夫婦合算で RM10,000 で大丈夫です。但し国から支払われる収入（公的年金と厚生年金）のみが、収入証明に認められます。企業からの給料や家賃収入は収入証明で申請する場合の収入には認められません。

③　マレーシア国内の医師の健康診断を受ける必要があります。

移民局指定の診断用紙があり、それに現地人医師に記入して貰います。医療保険に加入します。

マレーシアの医療保険または、日本の医療保険でマレーシアでもカバーが出来るものが必要となります。

④　御夫婦で申請の場合は婚姻証明書。日本の戸籍謄本をマレーシアに持参して、日本大使館で英文の婚姻証明書を発行して貰います。

２）　５０歳未満の申請：　単身、夫婦にかかわらず

第一ステップ：マレーシアでの生活費を証明す

る為に、金融資産残高証明と、毎月の収入証明の提出が必要です。

金融資産残高証明：ＲＭ 500,000 以上（現在 RM=27 円、約 1,350 万円）

毎月の収入：ＲＭ 10,000（約 27 万円）以上

注１）50 歳以下の申請の場合は、両方の条件を満たす必要があります。

第二ステップ：　マレーシアの銀行に、RM300,000(約 810 万円) の定期預金をします。

注）　定期預金は１年後に不動産を購入する又は、子女教育、医療費の目的があればRM150,000 まで解約が可能です。但し、ＲＭ 150,000　は、滞在中の保証金として定期預金を続けることが必要です。

２．申請方法：　本人が直接マレーシアの観光省本局へ申請するか、マレーシア政府のライセンスを受けた MM2H 代理申請業者を使って申請出来ます。本人が直接申請する場合は、マレーシア政府にビザ申請の保証人が居ない為、Security Bond を支払う必要があります（現在、一人 RM1,000)。代理店を使って申請する場合は､Security Bond は必要ありません。代理店は、マレーシア観光省のホームページ：http://www.mm2h.gov.my/ を参照下さい。150 社程の代理店が掲載されています。日系の業者も４－５社あります。

３．　許可までに掛かる時間：　書類が観光省に受理されてから約２ヶ月程度で、第一ステップが通った事を示す条件付き許可（Conditional Approval）が来ます。それからマレーシアへ行き移民局で MM2H の正式発給を受けます。.

４．　申請に掛かる費用：

１）移民局関係実費

― ビザ　フィ　　RM９０/　年　/　1人→　10 年間として夫婦で計 RM1,800

― Journey Performed Visa RM５００/　一人（発給時１回だけ）

－ Security Bond　RM1,000 ／一人（本人申請場合のみ）

２）　健康診断：　RM８０-５００程度（診断内容によって異なります）

３）　医療保険（現地で加入する場合）：RM500-1,000/ 年間

４）　英文書類の翻訳証明：　RM500-1,000 程度

５）　代行申請手数料：　申請当たり（単身でのご夫婦でも）　15-30 万円程度

＊業者によりサービス内容や料金が異なります。

５．　MM2H 取得のメリット：

１）10 年かそれ以上マレーシアに住める権利が得られる

２）マレーシアで銀行口座を開設し、日本では得られない金利収入が得られる。（現在１年定期で 3% 程度）その他色々な資産運用が可能になる。

３）マレーシアに日本から無税で車を輸入出来る。又はマレーシアの国産車（トヨタや本田の現地組み立て車も含む）を無税で、市場価格より４割程度安く買える。（金銭に換算すると100万円前後のメリットになる）

４）マレーシア発の格安チケット自由に購入出来る。（ビザ無しの場合は制限がある）

５）週 20 時間までパート就労（50 歳以上に限られる)や事業投資(ビジネス)も可能になる。

６．申請者が用意する書類：

― パスポート　原本とコピー、 顔写真（カラー）　４枚

― 戸籍謄本１通　原本（単身で申請の場合は必要無し）

＊ マレーシアの日本大使館又は総領事館にて英文婚姻明書を発給して貰います。

― 過去10年間の職務経歴書と申請志望書(英文で)

― マレーシア国内の銀行の預金証書（1 年の定期預金証書）

― 日本国内の収入証明で申請する方は、収入証明書（源泉徴収票や　年金証書など）の英訳が必要。

― 毎月の入金を確認する通帳原本　（6 ヶ月以

上、英文で）
― 日本の銀行の残高証明書原本（英文で）
― その他　資産の証明書（英文で）
― 医療保険証明書
― 健康診断書（マレーシア国内の医師による）
－ その他ケースバイケース観光省の要求する書類

7. 本人申請か代理店経由申請か？：

本人申請のメリット： ①代行手数料が要らない、 ②代理店選びの煩わしさも無い、 ③代理店の対応によってはトラブルもあり得る、 ④手続きや申請の流れの詳細をより自分で理解出来る。

本人申請のデメリット： ①英語の申請書類を自分で作成しなくては為らない、②申請は自らがマレーシアに出向き観光省に直接提出しなくては為らない。（観光省は英語での対応）、 ③書類の不備によっては追加資料を出したり、渡航する必要が出て来たりで、予想以上にコストや時間が掛かる可能性がある、 ④現地銀行口座開設や保険加入等も自分で行わなくてはならない、⑤ Security Deposit の支払いが必要で、ビザ取得後も移民局との交渉は全て本人が行う。

代理店経由のメリット：①書類の準備等は英訳も含めて手伝ってくれるので効率的、②日系業者は殆どが日本で申請を受け付けるので、申請時にマレーシアへ行く必要が無い、③申請がスムースに進み申請に関わるコストも最初から推定出来る、④現地の口座開設、健康診断、保険加入等も手伝って貰える、⑤ Security Deposit の支払いが不要で、ビザ取得後も移民局との交渉で手伝って貰える。

代理店経由のデメリット：①手数料が掛かる、②代理店の対応によっては不快な思いをする、③手続きの詳細は代理店に任せるので、自分で理解するのは難しい。

申請に付いて本人申請か代理店申請か？考え方は色々とあると思いますが、結論的には「英語が堪能で書類を整える煩雑さを気にされない方」以外は、最初の申請時は代理店経由が良いかと思います。更新の時は自分自身で更新出来ますので、更新は自らがされたら良いかと思います。

8. MM2H の活用方法と注意事項

1） 長期滞在やリタイアメント先として長く住める権利を獲得する。現在、MM2H を取得してもマレーシアに住まなくてはいけないという条件になっていません。将来住む事を考えているが早めに MM2H を取得しておくと言う考え方も出来ます。今後 MM2H の申請条件は厳しくなる予想ですので、関心のある方は、早い内に取得した方が良いと言えます。

2） マレーシアは 2020 年までに所得倍増と先進国家入りを目指しています。人口も 10 年間で約 20% 程増える予想です。高度成長まっさかりの国なので、資産形成するには日本よりはるかに適していると言えます。預金金利、不動産や株式の値上がりの可能性は、日本よりはるかに高いと思います。MM2H を取得すると、マレーシアで様々な資産運用が可能になります。

3）マレーシアは、英国の植民地支配が 170 年間続きましたので、今での英語や良く通じ、インター校も沢山あります。マレーシアの大学を通じて欧米に留学する良い方法もあります。MM2H を取得すると、21 歳以下の子供を帯同出来るので、子供を現地インター校や大学に入れ英語を習得させ、国際的に育てる事も出来ます。

4） マレーシア人は多民族国家で民族間と宗教間の調和を重要視しています。、マレーシア人を政治的、宗教的に扇動する活動は厳しく禁止されています。

5）上記の申請条件等が予告無く変更になる可能性もありますので、最新の情報を何時も再確認下さい。

以上、皆様の参考になれば幸いです。尚、MM2H に関して更に質問がある方は、私個人のメールアドレス：ishihara@tpcl.jp　にメールを頂いて結構です。

フィリピンのリタイアメントビザ

マニラ支部　№1269　岩崎　宏

フィリピン共和国が発行している退職者向けのSRRV査証をご紹介致しましょう。当初の頃の取得条件が改訂されておりますので、参考にして頂ければ幸いです。以前はフィリピンで永住する為と、取得される方が多かったSRRVビサ（退職者ビサ）ですが、最近は永住にこだわらず、長期滞在に便利、フィリピン国内での資産運用に便利、仕事が出来るので便利とかで取得されている方が増えているようです。以前の50才以上で＄50,000.00の定期預金が＄20,000.00に減額され、年金受給者であれば＄10,000.00に減額されたというのが大きな理由かと思われます。

フィリピン政府機関Philippine Retirement Authority（フィリピン退職者庁）では35歳以上の外国人を対象に特別居住退職者ビザ、通称SRRV（数次入国ビザの特権と永住権）を発行することができます。

（資格・条件）

国籍と年齢に関する条件：35歳以上の外国人、元フィリピン国籍者が対象です。定期預金に関する条件：申請者はPRAの指定銀行に米ドルで1ヶ月間定期預金をしなければなりません。50歳以上の方は20,000ドル、35歳以上49歳以下の者は50,000ドル年金受給者で一ヶ月お一人の場合＄800.00相当の年金を、夫婦であれば合計＄1,000.00を受給していれば＄10,000.00の定期預金で資格を取得出来ます。

（特典）

PRAビザ取得者には、以下の特典があります。

1. ビザの取得により、数次入国の特権が与えられ、非移民の身分でありながら永住権が認められます。
2. 免税で、7,000米ドル相当の家具、電気製品、身の回り品を持ち込むことができます。
3. 出国許可と再入国許可の手続きが免除されます。
4. 加入者が最後にフィリピンに入国した日から一年を過ぎていなければ旅行税が免除されます。
5. 本ビザ取得の為の預金をマンションやゴルフ会員権購入といった投資に使うことが出来ます。
6. 本ビザ取得後、外貨定期預金をフィリピンペソ預金に転換することができます。（但し、利息には源泉徴収税が課せられます、）
7. フィリピンに送金される恩給、年金は無税になります。
8. フィリピン中央銀行の規則に従う限り、本ビザ取得用の預金と投資利益、配当、キャピタルゲインの本国への送還が保証されます。
9. 有効な本ビザの保有者の子供が、フィリピンで学生となる場合、学生ビザや特別留学許可証の取得を免除されます。
10. 労働許可証を取得すれば就労できます。（年金受給者として申請した方は対象外）

（取得費用）

預金用の10,000～50,000ドルと手続き料1,400ドル　3人目から一人につき追加定期預金＄15,000.00が必要になります。

同伴扶養家族の手数料（配偶者と子供）1名に付き300ドル。子供は21歳未満で未婚に限ります。ビサ取得時、21歳未満であれば条件を満たしますが、結婚して22歳以上になるとPRAビサは無効になります。独身で居る限りは何歳になっても有効です。

（管理調査費用）

定期預金預けて30日経てばPRAの認可のもとでコンドミニアム購入、ゴルフ会員権購入等投資がで来ます。本ビザを取得した方が定期預金＄20,000.00から投資した場合には、投資金額に関わらず毎年＄500.00を定期預金＄50,000.00からの投資の場合は同じく投資額に関わらず毎年＄750.00のビジトリアルフィーを支払うことになります。

（申請：必要書類）

1. 申請書（フィリピン政府指定様式のもので健康診断書が併用されてる）

2. パスポート原本
3. 健康診断書、フィリピンで簡単に取得可能（日本で取得すると、英文への翻訳、**日本外務省とフィリピン領事館での認証が必要です。赤いリボン付きの書類になります。**）
4. 日本の警察発行の無犯罪証明書、県警本部刑事部鑑識課にて発行してくれる。（要戸籍謄本又は抄本／住民票／パスポート／ PRA の申請用紙及び必要書類リスト）
   費用は無料から 500 円程度、指紋採取後、1 ～ 2 週間で発行される）
   （注意）日本外務省とフィリピン領事館での認証が必要です。赤いリボン付きの書類になります。）
   在比日本大使館経由で取得する事も可能だが 1 ヶ月以上日数がかかる。（詳細はお訪ね下さい。）
5. ＮＢＩクリアランス（フィリピン滞在が 3 週間可能な方におすすめで、これがあれば、日本国の無犯罪証明書は不要でフィリピン国内、PRA 事務所内で申請取得可能、要 3 日間、要予約）日本の無犯罪証明が有れば無用です。）
6. 写真　1×1（インチ）2 枚　2×2（インチ）12 枚
7. 年金受給で $ 10,000.00 で申請する方は社会保険庁からの受給証書または年金通知書のはがきを英文翻訳し日本大使館または外務省で認証してもらった翻訳者の公証宣誓供述書が必要になります。
   夫婦、お子様も一緒に申請する場合は戸籍謄本をもとに日本大使館または日本外務省から**結婚証明書　子供さんは出生証明書の英文証明書を取得する必要があります。更にその書類をフィリピン外務省認証部または在日本フィリピン領事館で認証（Authenticate 赤いリボン付き）**して貰う必要があります。（代行可能）
8. 奥様の場合も旅券、申請書と健康診断書、無犯罪証明書、写真は必要です。お子様の場合は旅券、申請書、健康診断書、写真が必要ですが無犯罪証明は 18 歳未満であれば必要有りません。

（退職者ビザ取得までの流れ）

1. 送金用のアカウントを承認された銀行に予約開設（Letter of introduction が必要ですので旅券コピー　住所、連絡先、送金額を伝えればマーケッターと呼ばれる認定業者に代行してもらえます。）
2. 日本から予約開設したご自分の PRA 用の口座に送金
3. 比国到着後、送金した銀行に旅券持参で行き、PRA 用の定期預金という事で証書作成依頼
4. 定期預金証書写しと必要書類を PRA 事務所へ持参して申請、手数料を支払って手続き終了
5. 8 ～ 10 日（土日、祝日を除き）待機の後、発行されたのを確認して PRA 事務所に行き宣誓して完了

ここで注意点を申し上げます。ご自分で全て準備から、申請まで手配されても、よろしいのですが、慣れている PRA 認定のマーケッターにアシストして貰うと、手続きがスムーズに行くと思います。その際のマーケッターの手数料ですが、私が知る限りでは無料から 15 万円までまちまちです。そうです。. とんでもないのです。退職者、高齢者を食い物にしている輩が多いんです。ちなみに、私は無料にてお手伝いして下さる所を知っています。ところが日本人は不思議なところがあり、「ただ程、怖いものはない。」と仰る方が多い様なのです。そんな理由で「其れじゃ一万円も頂きますか。」という事になっているのが現状のようです。

タ　　イ

ビ ザ 名　ロングステイビザ

年齢制限　満 55 歳以上

必要資産　※　下記の内一つの条件を満たすことが必要

① タイ国内銀行に 80 万バーツ以上の預金残高証明

② 年金による月収 6.5 万バーツ又は年収 80 万バーツ以上の年金証明

③ タイ国内銀行の預金残高又は年収の合計が 80 万バーツ以上有することの証明

（タイ王国、日系金融機関タイ国内支店発行の英文証明と公証人が認証した証明が必要）

必要書類　① パスポート原本（全ページコピー 3 部）
有効期限 18 ヶ月以上の残があり余白が 1 頁以上あるもの

② ビザ申請書 3 枚（大使館のホームページから入手可）

③ 写真 4 枚　4cm × 4.5cm

④ 航空券もしくは予約確認書（原本とコピー 2 部）

⑤ 金融証明書（原本とコピー 2 部）・・・・公証人役場で認証

⑥ 英文経歴書（原本とコピー 2 部）‥大使館ホームページから

⑦ 無犯罪証明書（都道府県警察本部）・・・・外務省で認証

⑧ 国公立病院が発行した英文の健康診断書

申請料金　8000 円＋返送料　1000 円
1 年後の更新はタイ入国管理局へ直接

タイ王国大使館は 2012 年 7 月頃まで下記に移転しています。

東京都千代田区九段南２－２－１
０３－３２２２－４１０１

私たちのビザ

チェンマイ支部　№1053　加藤　新平

「いつか海外生活をしてみたい」・・・

漠然とした思いを持っていました、その思いは消えることなく退職時には、ロングステイすると決めていた。

家内は「おもしろそうね。」でＯＫ。三人の息子たちも「いいねー。遊びに行くよ。」で問題はさほどありませんでした。

そして、ロングステイの情報集めをしていたところ、とある本で、南国くらしの会の存在を知って、即、家内と共に入会しました。

この南国くらしの会のおかげで、迷うことなくロングステイ先はタイ、チェンマイに決定。

退職して 4 年目、「別紙 1 」のタイ年金ビザ取得方法にもとづき、年金ビザの取得を開始。

2006 年 9 月、まず、タイ大阪領事館に電話で問い合わせをしたら、先方から 7 ～ 8 枚の申請ひな形を送ってくれた。そのひな形に添って一つずつ、申請資料を作っては認証手続きを開始。

１度で済むところも有れば、２，３度足を運ぶばなけねばならない所もあり、何せよくあちこちの役所に足を運びました、三好町役場（現在はみよし市）、公証人役場、名古屋法務局、国公立病院、県警察本部、外務省大阪分室、タイ大阪領事館、等です。

外務省とタイ領事館の申請については、午前中 12 時までに出して、認証後の受け取りは、翌日の午後となっているため、大阪まで新幹線、ホテルと費用がかさんでしまった。でも家内と共に秋の大阪楽しみまいた。

2006 年 11 月に私は年金ビザ（ＯＡ－Ｍ）、家内は配偶者ビザ（Ｏ）を取得、その時は、試験に合格したような達成感を味わうことができた。

その 1 年後、家内の配偶者ビザを切らしたときのこと。

2007 年 11 月に 2 人で帰国し、チェンマイに戻ろうとしていた 2 日前の 12 月 8 日家内の父親が死亡してしまった、戻ろうにも戻れない。私は帰国する直前ミャンマーへ出入国してビザ延長済だったので困らなかったが、家内のビザは

期限切れになった。そこで、観光ビザを名古屋で取って2008年1月14日にチェンマイに一緒に入国、チェンマイのイミグレで配偶者ビザ取得を試みたがチェンマイでは配偶者びざの取得はできないといわれ困ってしまった。

ここで現金か預金８０万バーツが有れば問題なく､ロングステイﾋﾞｻﾞを取得できたのだが、我が家には、どの引き出しを広げても１銭なりと出てこない。

そこで、大阪での取り直し、私もやむを得ず日本に帰るはめになった。

そのおかげで、今度は、春の大阪見物淀川添いの桜を堪能しました。

その後、延長申請は無事に取得して現在に至っております。

「別紙１」　　タイ年金ビザ取得方法　　1/11/2006

	項　　目	適　　用	原本	コピー	日数	備　　考
1	パスポート	有効期間１年６カ月以上	１部	３部		
		２００６年10月更新				
2	申請所	指定用紙（インターネットからアウトプット）	３部			英文で記入
3	保証書	指定用紙（インターネットからアウトプット）	１部	２部		英文で記入
4	写真	縦４，５×横４ｃｍ	３部			
5	履歴書	指定用紙（インターネットからアウトプット）	１部	２部		英文で記入
6	金融証明書	年金証明書	１部	２部		
		国民年金・厚生年金保険年金額改定通知書				
		（年収　８００,０００バーツ以上）				
		①公証人役場にて原本証明			１日	5,000円
		（２時間位で証明してくれる、原本の英訳				英訳
		を作成）				
		②名古屋法務局にて公印認証（３０分位で認証）			１日	
		③外務省大阪分室にて認証				
		（申請に５分・認証に５分）				
7	無犯罪証明書	県警察本部に本人申請（電話で予約確認）	１部			
		①パスポート、写真、戸籍謄本、住民票、印鑑			14日	
		記入済み査証申請書を持参				
		②厳封の上外務省大阪分室にて認証				
8	国公立病院発行	①健康上渡航に問題ないことの証明できる	１部	２部	７日	診断書3,400円
	健康診断書	一般的な健康診断書英文で				病院に英文依頼
		②外務省大阪分室にて認証				
9	予約済み航空券	①航空会社或は旅行会社発行で申請者と		３部	３日	
	或は予約確認書	入国日、便名が確認できるもの				
10	外務省大阪分室	６金融証明書、７無犯罪証明書、８健康診断書の			２日	大阪への交通費
		原本認証（申請５分・認証５分）				ホテル代
		申請日の翌日に認証されるため２日間かかる				1人×20,000円
		外務省認証後必要部数コピー				
11	タイ大阪領事館	上記の原本とコピーを持って本人申請			２日	大阪への交通費
		申請午前中、認可翌日午後			２日	ホテル代
		申請料　15,000円				２人×20,000円
	※認証を受ける書類は発行後３ヶ月以内で英訳添付>					

台　　湾

台北駐日経済文化代表処

日本のパスポートをお持ちの方は９０日間の滞在までビザは免除されます。
（但し、パスポートの残存期間が３ヶ月以上であること）

名称
リタイアメントビザ　　１８０日間滞在のマルチプルビザ

取得条件
年齢５５歳以上
預金の義務は有りませんが、５万米ドル以上の資産を証明する。（日本の銀行の預金残高証明）
無犯罪証明書　（県警、警視庁で発行）
厚生年金、国民年金給付証明書
６ヶ月以上の海外旅行傷害保険の加入
随行する配偶者には年齢制限は有りません。

査証手数料
１０６００円

ビザの申請
台北駐日経済文化代表処査証部
108−0071　東京都港区白金　５－２０－２
０３－３２８０－７８００
横浜分処
横浜市中区日本大通６０　朝日生命ビル２階
０４５－６４１－７７３６
駐大阪経済文化弁事処
大阪市西区土佐堀１－４－８　日栄ビル４階
０６－６４４３－８４８１
福岡分処
福岡市中央区桜坂３－１２－４２
０９２－７３４－２８１０
那覇分処
沖縄県那覇市久茂地３－１５－９　アルテビル那覇６階
０９８－８６２－７００８
札幌分処
札幌市中央区北４条西４丁目１番　　伊藤ビル５階
０１１－２２２－２９３０

オーストラリア

観光ビザ　ESTA（電子ビザ）で3ヶ月間滞在可。従来の退職者ビザは廃止になり投資家リタイアメントビザになりました。

投資家リタイアメントビザ（Investor Retirement Visa）
申請条件
55 歳以上
無犯罪
配偶者以外の扶養親族がいないこと
民間保険に加入
債券投資をすること
人口の低い地域に住む場合
50 万豪ドル（約 4000 万円）以上の資産を有すること
5 万豪ドル（約 400 万円）以上の所得証明
50 万豪ドル以上（約 4000 万円）の債券に投資すること
大都市に住む場合
75 万豪ドル（約 6000 万円）以上の資産を有すること
6 万 5 千豪ドル（約 520 万円）以上の所得証明
75 万豪ドル（約 6000 万円）以上の債券に投資すること
投資家リタイアメントビザは一時居留ビザのひとつで、滞在期間は 4 年間また週 20 時間まで就労が可能

提出書類
①パスポート
② 戸籍謄本
③ 証明用写真
④ 資産、収入の証明書

⑤ 申請費用
在日オーストラリア大使館
東京都港区三田2−1−14　03−5232−4111

ニュージーランド

日本人の観光旅行者は3ヶ月以内の滞在はビザが免除されています。最長9ヶ月滞在を延長することが可能です。

ビ ザ 名　一時退職者ビザ
（Temporary Retirement Visa）
2年間滞在可（更新可）

申請条件　66歳以上
健康であり公益に反する経歴を持たないこと
１２５万nzd（約8000万円）　以上の資産を有すること
75万nzd（約4700万円）　を規定にそって2年間投資すること
滞在中は一定の保険に加入すること
6万nzd以上の所得証明
維持資金50万nzdを所有していることを証明

駐日ニュージーランド大使館
東京都渋谷区神山町２０−４０
０３−３４６７−２２７１

インドネシア（バリ）

インドネシア共和国大使館
リタイアメントVISA（退職者VISA）は５５歳以上の方を対象にした長期滞在の為のVISAですが、５５歳未満の方でも取得可能な場合がありますのでお問い合わせ下さい。滞在許可は１年間で以後１年毎にインドネシア国内で5年まで継続可能です。その後5年間の滞在申請をすることができます。
リタイアメントVISAの申請はインドネシアにて観光大臣から認可を受けた代理店が身元保証人になり手続きを行います。

★発給条件
満55歳以上
月額US＄１５００以上の年金受給者（年金証書又は預金残高証明で証明）
US＄３５０００以上の宿泊施設を購入又は月額US＄５００以上の賃貸物件を借りる
健康保険、生命保険加入者（海外保険も可）
第三者損害賠償保険に加入（現地で加入可）
滞在中はインドネシア人を使用人として雇用すること。
現地で就労しないこと。
現地にて観光大臣から認可をうけた代理店が身元引受け保証人になること。

★ 必要書類
パスポート（残存期間が12ヶ月以上）
年金証書又は銀行残高証明
健康保険、生命保険（海外傷害保険でも可）
第三者損害賠償保険（現地で加入可）
住居を賃借している住居証明
インドネシア人を使用人として雇用する雇用契約書
戸籍抄本
英文履歴書
写真　4cm × 6cm = 10枚　3cm × 4cm = 4枚
2cm × 3cm = 4枚
※ バックを赤色、襟付きで撮影

大使館、領事館所在地
インドネシア共和国大使館
東京都品川区東五反田５−２−９
０３−３４４１−４２０１
在大阪領事館
大阪市中央区南船場４−４−２１
りそな銀行船場ビル6階
０６−６６５２−９８２４
在福岡名誉領事館
福岡市南区那の川１−２３−３５
㈱電工内　０９２−５２３−００８１
在札幌名誉領事館
札幌市中央区大道西７−３−１
北海道ガス㈱内　０１１−２０７−２１００

リタイアメントビザがある他の国

フィージー
北マリアナ連邦
スペイン
メキシコ
コスタリカ
グアテマラ
ブラジル
ポルトガル
イギリス
スイス　　など

★ビザの申請条件は刻々変更になるようです。申請される時は各国の大使館 HP から確認をして下さい。

バリ島

バリ島 サヌールビーチ沿いのレストラン

バリ島 伝統芸能ジェゴグ

ホイアン 日本橋

ラオス ルアンパバン

タイ カンチャナブリ

酒匂さんの異国での喜寿のお祝い会

関東甲信越支部　№900　島林 健二

会員番号２４番、酒匂景輝さんは２０１０年８月２６日、７７回目の誕生日（喜寿）を迎えられました。そのおめでたい喜寿のお祝い会が異国の地、チェンマイで行われました。

その様子を簡単に紹介いたします。

当日は酒匂さんご夫妻に加え、ご長女ご夫妻、２人のお孫さんも日本からかけ付けられ、当日チェンマイに滞在していた会員、元会員、そして酒匂さんが今までのチェンマイステイの際に、何かとお世話になったり、関係の深かった方々をお招きになり、総勢６５名の大人数の出席のもと、ホリディイン２階北京の間で盛大に行われました。

お祝いの会は、チェンマイ支部総務担当の加藤さんの司会で、６時３０分に開会、まず石川会員から酒匂さんの紹介がありました。要旨は「酒匂さんはリタイア後、今から１２年前に南の会の創立、設立に取り組まれましたが、当時在籍した９０組くらいの会員も今は残っている人も少なくなり、多くの役割を担ってこられたのは酒匂さんおひとりであり、今日の南の会の理念、目的の基盤を築かれました。酒匂さんの思いは、リタイア後の生活を暖かい南国で、そしてそこで人の和ができれば良いとの考えから、みんなで共に楽しい時間を過ごし、仲良く暮らすというスタイルを実現するのが夢であったように思います。それを実現するために、ご自身がここチェンマイに来られた理由であり、皆が楽しむことが酒匂さんの楽しみであるように思います。

いろんな病気を体験されましたが、チェンマイに来ることによってそれらを克服されたように思います。今後も一層健康に留意され、さらに米寿、白寿のお祝いができるように願っています」

この後酒匂さんの挨拶がありました。

「沢山の方々のご出席を頂いて感謝します。子供のころ空襲に会い、命拾いをして今日があることに思いをいたしています。自分は５０歳ころからいくつかの病気を体験し、不安の中から克服するたびに、次の目標を決めて生きてきました。

まず６０歳の還暦と結婚３５周年のお祝いができましたが、その後悪性リンパ腫に見舞われ長期にわたる闘病の結果、克服し、次の目標を結婚５０周年におき、昨年（２００９年）２月にやはりここチェンマイでお祝い会を実現できました。（筆者注：このお祝い会はチェンマイ支部サロン会に代え、総勢９０名ほどの出席で行われました。このとき出席者一人一人に、酒匂さんご夫妻からバラの花が贈られたことが印象的でした）

何度か死ぬような思いもしましたが、南の国でなら死んでもよいとさえ思いました。

今日、喜寿のお祝い会をこうして盛大に行っていただき感謝しています。ありがとうございます」

次いでバースデーケーキのローソクに灯が点され、出席者全員の「ハッピーバースデーソング」の合唱のもと、酒匂さんが吹き消されるセレモニーが行われました。

この後、山口支部長の音頭で乾杯の後、料理を頂きながら歓談し、列席者の祝辞が述べられました。いくつかを紹介すると、

伊澤さん「酒匂さんとは１０年来の長いお付き合いで、理事長時代に体験された問題も解決され、また体調も回復され嬉しく思います。この時に喜寿のお祝いができてうれしい限りです。この次は米寿のお祝いをしたい」

ジョンさん「酒匂さんとは長いおつきあい、南の会の仕事の打診を受け、お世話になってきた。酒匂さん、宮嵜さんとアマリを拠点に活動していこうということで係わらせていただいた。米寿、白寿のお祝いをチェンマイで行えることを祈りたい」

しばらく歓談の後、お孫さん、そして南の会、元会員の方々から花束の贈呈が行われました。

その後も逐次列席者有志の祝辞が述べられ、９時過ぎ終宴となりました。

酒匂さんは「若い人たちに祝福されてとても幸せな気持ちになれた」とおっしゃっておられ、終始満面の笑みを浮かべておられたことが印象的でした。

今後も健康に留意され、南国生活をお元気にそして楽しく過ごされることを願って、喜寿のお祝い会のご紹介とします。

南米の旅③
(パタゴニア編)

関東甲信越支部　No.40　平澤　信

VISA と旅日程

'05.(平成１７年)２月７日(月)チリの北の街(カラマ）に列車にて入国。２月 11 日（日）までカラマに滞在。チリ滞在中、アルゼンチンのメンドーサに３日間小旅行に出掛ける。この時、チリからの出入国は薬物に対するかなり厳しいチェックが入る。

ペリトモレノ氷河などで有名なアルゼンチン・パタゴニアには２月 21 日（月）に入国。

この辺りの観光地は、チリとアルゼンチンの国境が入り混じっていることから俗にパタゴニア地方と呼び、国境越えはパスポートを見せて押印を貰うだけの簡単なものであった。メンドーサへの厳しい入国が嘘のような寛大さだ。

チリ、アルゼンチン共に３か月以内は VISA 不要。

チリへのカラマへ（下痢再発に苦しむ）

ボリビアの世界一大きな塩湖を持つウユニから、列車で国境を越えて、午後９時 30 分チリのカラマへ。ボリビアのウユニから何と 18 時間の列車の長旅となった。

寒さと疲れのため、咽も胃腸もボロボロ。ホテルを選んでいる時間はなく、ガイドブック掲載のホテル・スプレンドへ。ホテル代＄9,000（P ペソ（1,700 円））チリの通貨名はペソだが、表示は何故か＄となっている。

カラマの気温は夜でも 28℃と高く、チリへの国境越えの寒さに備えて着ていた冬物の衣服のため、今度は汗を流しながらカラマの街を歩く羽目に。ホテルで簡単な夕食を取り、倒れこむようにベッドへ。

夜中に激しい腹痛と下痢と発熱（38℃）のため目が覚めた。

日本の入院先の病院から貰ってきた下痢止め薬を服用したが、その晩は全く功を奏さず 10 分毎のトイレ通いとなり、昨夜に引続き、やっぱ

り眠る暇がない。

翌朝熱は少し下がったが、お腹全体に、ズーンとした鈍い痛みがあり、下痢も止まらない。私の健康はもう回復しないのではないか？漠然とした不安感に怯える。

殆ど食べ物を口にしていないのに、この下痢は一体何だろう？「日本の抗生物質が効かないと言うことは、細菌性ではない。だから心配は無い？」と自分に都合よく素人判断しては見たが、やっぱり不安は消えない。

だが、時間が経つにつれて腹痛が和らいだことを考え合わせると、「石灰分が多い水？つまり硬水」が合わなかったのか？とも思う。

カラマの病院に行ったらきっと入院になると思うと足が向かない。何故なら「ペリトモレノ氷河」と「イグアスの滝」を見ずして倒れてしまうわけには行かない。

食欲は全くないのだが、薬を飲むために、押し込むように朝食を取り、大カップ２杯の紅茶と煎茶も飲む。

食物を飲み込んで、まだ、胃に到着していないのに、もう下痢になる。お通じは全くの水のようで10分と持たない。

病気にはニンニク焼肉を！？

フロントの小母さんにトイレット・ペーパーを余分に欲しいと言うと、「1日1個に決まっている」と言いながらも、誰かの使い残りで半分くらいしかないペーパーを平気で出してくる、ケチばあさんだ！

そんな訳で、カラマも普通は１泊で通過する街なのだが、4泊5日も滞在してしまった。

２日目午後に、薬が効いてきたのか、腹痛は少し軽くなったが下痢は相変らず。

夕方、小康状態になった時、街の中華料理店で白いご飯を買ってきて、ミルクと卵を入れた「ミルクがゆ」を造った。ところが、このご飯40分コトコトと煮ても全く軟らかくならず、米がプラスチックで出来ているのかと思ったほどだ。ここでは、この何の味もしないお米を美味しいと感じる舌を持っているのだろうか？

ケチばあさんの台所を借りて、２人で並んで台所に立った。彼女は、私の作るお粥を見て「レチェ（牛乳）と卵とご飯か？フーン体には良さそうだけど、こんなもんじゃ力が出ないね」と不思議そうな顔をした。

「チリでは病気の時何を食べますか？」と質問したら「そうね、チリではニンニク焼肉だわ！」との答えであった。

病気にニンニク焼肉か？ウーン西洋人の胃は鋼（はがね）で出来ているのかなー。

このご夫人が余にもケチで、因業な人柄なので、チエック・アウトの際、記念写真を撮らせて欲しいとお願いしたところ、服装と髪を入念に直し、にこやかな顔でカメラの前でポーズを取ってくれた。

写真で見るとそれ程悪い人には見えない。彼女の住まい（部屋）は、窓なしの昼間も電気なしには何も見えない、かび臭い、物置のような部屋であった事から、環境が人を創ったのか？とも思う。

哀愁を帯びた人生に見えるのだが、性格がキツイせいか気の毒には思えない。

多分、これがチリの田舎の一般的庶民の暮らしなのでしよう。

３日目に下痢が少し落ち着いたところで、街の目抜き通りを散歩してみる。小さな街だが、清潔で至る所に大きな公園や商店街もあり、暮らすには便利そうな街だ。

病気したことで、チリの片田舎街ですっかり道草してしまった。豪華長距離バスでのサンチャゴ行きを楽しみにしていたのだが、時間がなくなってしまったため、航空機を使用することにした。

ここは、ランチリ航空（チリの航空会社）が独占しているため、カラマ→サンチャゴ間のチケット代は片道159,580ペソ（P）（30,039円）。と取り放題の正規料金。

格安料金のチケットは何処にもなく、まるで追い剥ぎに合ったようだ！

チリの首都サンチャゴへ

２月１０日（木）。体調は良くないが、どうせ臥せっているなら、大都会のサンチャゴで…と

の思いからカラマを後にする。

下痢で体重が 3.5kg 落ちてしまった。昔痩せていた頃は 42kg だったから、まだ少し余裕があると、自分を励ましては見たが、痩せて行く事は減退を感じて決して嬉しいことではない。

物を食べなければ、腹痛は少し治まっているものの、相変わらず下痢は続いている。

危険と知りつつも、水分も食べ物も控え、航空機に乗り込む。

この飛行機は大当たり。アンデス山脈の上空を一直線に飛んでくれた。雪山あり、裸山あり湖も見える、身震いするほど凄い景色だ。

飛行機の右側の窓から覗いていたため、サンチャゴに着いた時、首が右へ曲がってしまいそうだった。下痢も腹痛も忘れ豪華な数時間を楽しんだ。これこそ怪我の功名。

アタカマ砂漠上空辺りであろうか？　樹木の無い裸山の裾にひっそり暮らす人々は、重い病気に掛かったら死ぬしか選択肢が無い。心わなくなく思いで眺めた。

サンチャゴにも「金太郎」（和食店）

サンチャゴの街は「人工的に緑を育てた」と言うだけに、街路樹も多く西洋風の美しい街だ。西洋風というのも食傷気味ではあるが。

体調を考えて、中級ホテルのフォレストに滞在。30 $ （3,180 円）。30 $ で寝室とは別の応接間も付いている立派な部屋だ。

ホテルの斜向かいに日本食レストランがあり、その名が又もや「金太郎」であった。

マスターは 40 代の筋肉質・スポーツマン風の元気印で、正に金太郎を思わせる男性であった。サンチャゴ滞在歴 18 年だと言う。

体調が悪いことを話すと、直ぐに「お粥」とカレイの煮魚を造ってくれた。こんな時は本当に同胞であることを有難く思う。

マスターに「下痢止め薬」のことを聞いてみた。すると「俺ら、下痢なんて何十年もしたことがないんで分からないよ。正露丸でも飲んで見る？」と言う返事で、埒があかない。その程度の薬で治るほど優しい下痢ではないので、薬屋の場所だけ聞いて出掛けてみた。

薬屋で英語の下痢（diarrhea）は、彼らには全く通じなかったが、出してくれた薬を私が英語読みして見ると（ダイアリエ）と読めるのだが、発音が違っていたのであろうか？

6 時間毎の服用で、2 回目服用から、少し下痢も腹痛も治まった。2 日間服用すると軟便ではあるが、腹痛は無くなった。有難〜い薬であった。

この爽快感は何か月ぶりであろう？健康であることの有難さが身にしみる。

金太郎おじさんに、お礼方々伺ったおり「金太郎」の名の由来を聞いてみた。彼曰く「桃太郎では、その国を退治してしまいそうで危ないでしようが…。」との事であった。なるほど…納得。

彼は、サンチャゴに骨を埋めるらしい。「もう、日本に帰っても居る場所がない」と言っていたが、食事に不満がなく（日本の米より少し不味い程度）、日本人も結構住んでいて、商売も繁盛している。だから、彼の生活は豊かに感じられた。

「死ぬほど退屈な」日本の伝統芸能？

サンチャゴの目抜き通りで両替をした折、列の 2 人後ろの、テキサス（アメリカ）から来た

と言う男性から声を掛けられた。「3か月前に日本を旅して来たよ。街は清潔で、巷には物が溢れ、親切な日本人ばかりだった。

けれども「日本の食事と伝統芸能の能・狂言には参った…。」とのこと。

能・狂言に対しては分かるが、日本の食事でケチをつけられた事は始めてだ。「日本で、何を食べましたか？」すると彼は、「水炊き、シッポクうどん、きしめん、しゃぶしゃぶ、甘酒…。」どうも、サッパリ系の日本食だけを選んで食べたようだ。

日本で、彼を案内してくれたと言う関西の友人タカシ君が、一生懸命日本の伝統の味や文化を紹介してくれたのだと思う。

能・狂言は、「我慢会のように退屈な２時間であった。」との感想を漏らした。

能・狂言は余計なものを極限まで削ぎ落とした、世界に例を見ない高い芸術性と私は思っている。我慢会か…？ 参った！

能・狂言については、以前にもフランスの著名な芸術家が、「死ぬほど退屈した。能は、刑務所の囚人に見せたら強制労働よりも遥かに懲罰的であろう」と言って周りを驚かせたと言う能の本で読んだ記憶がある。まして普通の外国人が何の下準備もなく能を観劇すれば、こんな結果もあり得るとは思う。

ギリシャ彫刻を彷彿とさせる美しい顔立ちの若いアメリカ人が両替所で、真剣に訴える顔を見て、よほど参った（？）のかと気の毒でもあり、可笑しくもあった。

外国人の彼がどのように評価しようとも、能・狂言の価値が下がるわけでも、上がる訳でもないのだが、心の深い部分を傷つけられたようで、笑ってばかりもいられない気分だ。

彼の友人、タカシ君は、外国人への配慮が少し足りなかったと思う。せっかくの好意が、すべてが裏目に出てしまったようだ。

だから私は、欧米系の人達に日本での食事を勧める時は、例外を除いて「かつ丼、札幌ラーメン、とんかつ、すき焼き、すし、てんぷら」等で、日本の伝統芸能では、「能・狂言ではなく、歌舞伎」を推薦している。

サンチャゴは食事も気候も良く、又滞在したい街だ。翌日から旅の遅れを取り戻すべく、バスチケットや航空券の手配と、毎日忙しく地下鉄に乗って旅行代理店へ出掛けた。

ホテルの従業員達は、旅人の私が地下鉄を乗りこなす事に驚いたが、日本の東京で長く生活した者にとって、２本しか走っていない地下鉄なんて「蛍の尻だ！（明るいの意味）」と言ったら、彼らには意味不明らしく「蛍が何だって…？」。マア良いってことよ！

地下鉄は清潔で快適であった。乗客の人々も皆親切で、腰掛けろと勧めたり、どこで降りるのか、と案内してくれる。私は全て知っているのだが、喜んでこの親切に甘えた。

アルゼンチンのメンドーサへ小旅行

２月１３日（日）。ここから国際バスに乗車、7時間でアルゼンチンのメンドーサに行ける。

途中この国の最高峰アコンカグワも遠くに見ることが出来る素敵な小旅行だ。

昼過ぎのバスでサンチャゴを出発、アルゼンチンのメンドーサへ向かう。バスの中は大半が地元民で、旅行者は少なかった。

このアンデス越えの旅のイミグレーションは、バスの乗客を全て外に出し、お客の荷物を厳しく点検する。

アメリカ人の若い女性バック・パッカーの荷物を開け、下着まで取り出し点検している。彼女は、今にも泣きそうになって顔を覆った。「麻薬の取締りだから仕方がない！」と地元民は言ったが、麻薬は汚れたパンツに隠すものなのか？

こんな厳重な点検があるとは知らなかったので、バスに置いて来たナップザックを取りに戻ろうとしたら、隣にいた年配のご婦人が、私のジャケットを強く引っ張って「あの人達がバスを点検して見つけなかった物を貴方が取りに行く必要はない！」と目配せして、顔を横に振り、粋な計らいをしてくれた。

そんな訳で、見つかったらキット取り上げられるであろう食べ物の入った私の荷物は無事であった。

数日前に、アンデス上空を飛行機で縦断し、

感激したが、今度はバスで、アンデスを横断してその感激を２度味わった。

標高が高いため、少し高山病に掛かったが、病につき合っている暇はない。草木１本生えていない黒々と切立った死の山々、深く刻まれた渓谷は、恐ろし気でもあり、美しくもあった。巨大な大自然の麓を縫うように走る豆粒のようなバスに乗って「人間って何といとおしい存在だろうか」と溜息が出た。

アルゼンチン側へ抜けると、浅黄色の美しいブドウ畑が地平線まで続く。アルゼンチン側は雨の降る普通の気候であった。豊かな緑を目にしたのは、何か月ぶりであろうか？

メンドーサの街は、何処を歩いても緑一色で、プラタナスの巨木は天へ届くほど伸びやかで好きな風景だ。日中の気温 28℃、湿度 50％も大いに気に入った。

食べ物は、生ハムと美味しいワインがペットボトルの水とあまり変わらない値段なのも有難い。ただし、生ハムはそれほど安くはないうえ、塩味が強い。

観光客は少ないかに見えたのだが、目指したホテルは２軒とも満室で断られた。雨が降る夜の８時過ぎだったので、断ったホテルが紹介してくれた、こざっぱりした良いホテルに泊まった。

ホテル・ペテット 17.4 ＄（1,832 円）。

朝食はビュッフェ形式で、メロンまで付く豪華さであった。

ただし、翌日のお昼、野菜不足解消と思って入った街の中華料理の不味かったこと。茄子の煮物が、酢で煮たかと思うほど酸っぱい上、ニンニク臭がきつくて私には食べられない。地球の反対側まで来るとこんなにも味覚が違うものかと恐れ入る味覚だ。

素朴で、のどかで美しいメンドーサにはもう少し長居したかったが、南米全体を３か月で回る予定であるため、ここだけに留まる訳には行かない。

翌朝（２月１５日（火））たった３日間の滞在で、メンドーサを離れサンチャゴへ戻るバスに乗る。後ろ髪引かれる思とはこんな気持ちを言うのではなかろうか。

バス代は来る時と同額なのに、この日のバスは、換気も良いうえ、国境近くでは茶菓のサービスまであった。紅茶が甘すぎて胃が痛みそうなので要らないと言ったら「無料なんだから！飲め！」と無理にコップを渡された。

このバスの内でサンドゥイッチを沢山持って来たアメリカ人男性が「チリへ持って入っても良いか？」と尋ねたら「国境まで、まだ２時間あるから持っている食べ物は全部食べるように…」との指示であった。

「食べ物を持ち込んで良いか？」と聞かれれば、担当者は規則だから「ＯＫ」とは答え難いではないか。馬鹿アメリカ人めが…。

賢い？私は美味しい生ハムもサンドゥイッチも持っていたが、指示は仰がず、黙って国境を越えた。帰りのチリ入国のイミグレは、誰の荷物にも指１本触れられる事はなかった。

７～８時間にも及ぶ長旅だから、乗客はメンドーサから買ってきた食べ物を担当者の許可も得ず、バスの中で食べていた。「食品持ち込み禁止」と言う、ここの規則の方が現実的でないと思う。

「食べ物は国境までに皆食ってしまえ！」と言ったはずの担当者まで、先のアメリカ人から貰ったサンドゥイッチをチリへ入ってからもほおばっていた。こんなアホくさい規則は廃止できないものか？

サンチャゴに着いたのは８時を廻っていた。例の元気印「金太郎」での私の夕飯は、ご飯、味噌汁、鯛の刺身、焼き魚、漬物と言う日本式の豪華な最後の晩餐であった。この豪華メニューでも千円程なのが嬉しい。

別れ際、金太郎のマスターが「長旅のようだから、食欲がない時はこれを使え」と醤油の小瓶を、そっと持たせてくれた時は胸が熱くなり、泣きそうになってしまった。

南米のハイライト　チリ・パタゴニアのプンタ・アレーナスへ

２月１７日（木）。サンチャゴから航空機で約 4 時間の旅（10：50 発→ 15：20 着）。

サンチャゴ→プンタ・アレーナスの片道航空

運賃 131，260 ペソ（P）（33，450 円）高〜い！ぼられ放題！清貧の私、身の細る思い。

南米の地図をご覧あれ、南米大陸の真ん中辺りから、一挙にマゼラン海峡まで南下した。「病気していなければ、細長いチリを豪華バスで走るはずだったのに…。」と繰言が脳裏をかすめるが飛行機はやはり体の消耗が少ない。

快適気温のサンチャゴから、夜は日本の晩秋を思わせる肌寒さに気温が下がる（13℃〜14℃）プンタ・アレーナスだ。

昼間は燦燦と陽が当たって暖かいが、夜の冷え込みは厳しく、ホテルには暖房が入る。冷たい風が毎日吹く、素朴で小さなこの街で、木造２階建ての感じの良いホテルを見つけた。

「日本人は誰もいない」と思って入ったのだが、数年前に椎名誠さんと言う作家が来て泊まったらしい。

これが、この宿の自慢で日本人が来ると彼の色紙を見せる事が慣わしになっているようだ。「奴もこんな所まで来るとは結構旅好きなんだ」と思った他は、特別な感慨は無かったが、床や階段まで木造で、広々とした宿の造りは郷愁を誘うものがある。

因みに、この宿モンテカルロは 9，900 ペソ P（1，825 円朝食つき）。であった。

その日の午後、特別に見る物とてないこの街で、カテドラルも見えるアルマス広場の公園で、マゼラン像を見た後、歩いてマゼラン海峡を見に行った。

パナマ運河が開通したことで、この海峡に昔の繁栄の面影はなく、ひっそりしている。

遠くに船が何艘か見える他は、人影もなく、

油をながしたように、青黒く見えるマゼラン海峡を１人で見ていると、海に引き込まれそうなゾッとする怖さを感じる。海を見て怖いと感じたことは初めてだ。壊血病で命を落とした船乗達の呪が、この海峡に未だ残っていたに違いない。　恐れながら海水をそっと舐めてみたら普通の海水の味であった。

地球の南の果てに来たんだなーと言う、形容しがたい感慨が湧く。

チリ・パタゴニアのプエルト・ナタレスへ

２月 19 日（土）。静かなマゼラン海峡の街で、もう少し滞在したい気持ちもあったが、全体の日程を考えると先を急がねばならず、お気に入りの椎名さんの宿であったが、珍しくたった２泊で後にした。

朝購入したバスチケットは座席番号が１番、最前列左側の良い席であった。

しかし、車窓から見えた風景は、苔のような緑が大地に張り付くように地平線まで拡がっているいわゆるツンドラ地帯で、殺風景なものであった。

プエルト・ナタレスは、広大なパイネ国立公園で有名な観光名所で、ペリト・モレノ氷河と並んで、パタゴニアの人気を２分している。観光客が多いため、バス停に着くや客の争奪戦が始まり、ヒドイ安宿に高値をつけて客を騙す手法がまかり通っている。

私は、アメリカ人の若い女性が教えてくれた「家族的」だと言う宿に泊まることにした。部屋代が、パンフレットに書かれているよりも倍近く高いので、指摘すると「幾らなら良いの？」という。日本のガイドブックには 6，000 ペソ P（1，146 円）と書いてある。と言うと「じゃそれで結構」と言うことで、この心もとない宿に泊まることになった。

広々としたキッチンもリビングもあるのだが、日中お茶１杯たりとも自由に貰えず、見せ掛けの「家族的」であった。長期滞在ではないので我慢する。

パイネ国立公園１日ツアー

翌早朝（7：30 分発）、「パイネ国立公園」１

日ツアーに軽い食事とお茶持参で参加。

１日の観光費用 26,000 ペソＰ（4,966 円）入園料、入場料、バス代で食事代は含まない。

パイネ国立公園の総面積 1630㎢は、ほぼ大阪府の広さと日本のガイドブックに書いてある。しかし、その殆どが荒野で、年間平均気温 6.5℃と言う低温である上、年中強風が吹いているため、埃っぽく、締め切ったバスの中にまで砂埃が入ってくるほど気候が荒い。

少し北に来たので、気温は高くなったのだが草や木はドライフラワーのようだ。

だが、場所によってはコンドルのような猛禽類も住み、高山植物が生えている草原地帯や落葉樹の森、氷河が流れ込む冷たいグレイ氷河もあり変化に富む自然公園ではある。

今日マイクロバスの乗客の国籍は、ドイツ人２人、東欧系２人、チリの女性２人そして日本人の私。

本日私のお隣さんは、白髪、色白、大柄で赤ヤッケの年配のご夫人。朝の挨拶代わりに「どちらからですか？」と尋ねたら、怖いものでも見るような目で私を見すえて、肩をすぼめて「私は英語が話せないの、前の席にいる友人が英語を話すわ！」と英語で話した。

私の方は「いいの！挨拶代わりなんだから…。」英語が話せないと言われて、今日は英語を話さなくて済むと少し気が楽になった。

しかし、観光が始まると赤ヤッケさんの友人、緑ヤッケのご夫人が来て、かなり速口でチリの歴史や文化、ミロドン洞窟の恐竜について話してくれた。　集中して聞いていても、かなり分からない。先ほどの少し気が楽になった気持ちは、即、緊張に変わった。

「チリの人達は英語を話さないと聞いていますが、あなたは何故英語を話せるのですか？」すると緑ヤッケさんは「私高校の英語教師なの。スペイン語から英語はそれほど難しくないワ。日本語からスペインや英語は難しい」要するに縦文字から横文字は大変と言うことを良くご存知で私もその通りだと思う。

「私の英語で分からない所があったら遠慮なく質問して」と、反応が鈍くなっている私に彼女は言ってくれたが、スペイン語訛りも入っている彼女の英語は私には難解であった。

お２人は、とても親切で、私のためにミロドン洞窟の恐竜復元図の前では、恐竜の真似をしてくれるなど、終始友好的であった。

特に、赤ヤッケさんの迫真の演技を見て、この人の祖先は恐竜であったかと思わせるものがあった。白人特有の大きな目鼻立ちはこんな時、実に迫力がある。

彼女等は日本に興味があるらしく、国際色豊かな客の中で、いつも私と行動を共にしてくれた。

ＩＴ技術の進んだ先進国と言う基礎知識を持っていて、「日本人は誰でもパソコンや、車、ＴＶを１家で何台も持っているって本当？」と、質問をされた。こんな時「本当です」といえば良いのか「人によります」かで戸惑う。

緑ヤッケさんに「後で貴方のメール・アドレスを教えて」と言われたが、私は忘れたふりをして教えなかった。

フォレストが来て火を焚いた？

雪を頂いたパイネ・グランデ山はこの公園の自慢の見せ場の１つになっている。乾いた土地にひと際高く聳え立つ山々だが、今日は快晴にも拘らず「皆既日食」かと思うほど、山も太陽も霞んでいる。こんな豊かな大自然の中でスモッグ？　或いは観光客用のバスが立てる砂埃が空に舞い上がった？

ボンヤリと霞んだ景色に業を煮やして、運転手に聞いてみた。運転手さん答えて曰く、直訳すれば「フォレストが来て火を焚いた」と言う。

私は、「この国にもホームレスのような人達が

いて、夕餉の支度で焚き火をしたのか？」と思った。

大きな山々が曇るほど火を焚く？やっぱ変だ！この運転手英語が得意でないのだ。緑ヤッケの英語教師にも聞いてみたが、全く同じ答えであった。「フォレストとは､フォーリンガー（外国人）なのか？　ツゥーリスト（旅人）」なのか？「火を焚いた？」何で？　理由は分からずじまいだった。

マイクロバスは、１日中観光客を乗せて広い公園を走ってくれる。パサパサに乾き切ったこの公園で、サルト・グランデの豪快な滝を見た時は心身ともに癒された。

「遠くにある雪山の水が、長い年月掛けて川になり、滝になった」と緑ヤッケさんが説明してくれた。

また、氷河が流れ込む、グレイ湖は、湖の真ん中に人工的に造られたと思われる遊歩道があって、向こう岸まで片道３時間で人が歩いて渡れるようになっている。ブルーの氷河の漂う湖と、周りの雄大な山々に対して、「美しい」以外の言葉が出てこない。

日中の日差しは強いが、風は冷たい。

朝から休憩もなく観光してきたが､午後２時。やっとお昼の休憩らしく、２時間の自由時間となった。朝から何も口にしていない。空腹のあまり景色が霞んで見える。

グレイ湖を見ながら、お昼を食べようと思って、連れの２人（赤・緑ヤッケさん）を誘ってみたが、チリ人のお２人は、お昼はいらないと言い、どんどん遊歩道を歩いていく。

地の果てで、飢餓の擬似体験…。

これは大変！お昼を食べ損なう。私１人だけ、急ぎ湖の畔の緑地帯まで戻り昼食にする。

この朝６時に軽い朝食を取ってから既に８時間何も食べていない。

緑地帯では、同行のドイツ人の２人が食事を済ませお茶している。彼らは、食べ残りのクリームサンドを「良かったらどうぞ…。」と私に分けてくれた。

普段私は甘いものを殆ど口にしないのだが、その時は空腹のあまり、お礼もそこそこに、震える手でレモンの香りのするクリームサンドを、なりふり構わずガツガツと食べた。

サンドゥイッチ２枚持参して良かった！この辺に食べ物屋は全くない。水さえ売っていない。食べ物を持っていなかったらどうなっていただろう？　南米の地の果てで、手が震えるほどの飢餓体験をした。

軽い昼食が終わって人心地ついた所へ、チリ人のお２人が帰ってきた。彼女達は朝の出発時から何一つ口にしていない。水さえも。

チリではお昼を食べない習慣なのか？

もっと驚いたのは、観光も終わった夕方６時過ぎまで、彼女らは一度もトイレに行っていない事だ。お腹の中の臓器は全て膀胱だというのだろうか！？

１日飲まず喰わず、トイレにも行かずに済む便利（？）で不思議な体の持ち主。体の作りが私達とは違うとしか思えない。やっぱり彼女らは恐竜の子孫なのかも…？

トイレと食べ物の事を聞こうと思ったが、質問に対して、３倍４倍の英語の説明が帰ってくることを思うと面倒で質問しなかった。

夕方「家族的」ホテルに帰って**超**驚いた。フロントの説明によれば、霞が掛かった山々の原因は、「イタリア人旅行者のタバコの火の不始末から山火事になったもので、火は既に１週間燃え続けている。地元民の生活にも危険が及び始めたため、公園は今日で閉鎖される。」貴方は幸運だった。

「フォレストとは、外国人と旅人」を一緒に言ってしまったのか？　焚かれた火とは、山火事

だったのだ！　もっと英語をキチンと勉強しなくては…。

翌朝、各地から集まって来た観光客は公園へ入る事もできず、宿の確保さえもままならず街に溢れ返っていた。

当地の短い観光シーズンを思えば胸痛む出来事なのだが、客の立場で物言えば、パイネ国立公園しかないこの街で、客に一体何処へ行けというのだろうか？

喫煙者に対してこの国は少し甘い気がする。公園内は全て禁煙にすべきだ！規則を破った人からは法外の罰金を取ってよいと思う。

アルゼンチン・パタゴニアの カラファテへ

２月２１日（月）。氷河観光の最盛期とあってカラファテに向かう客は多く、早朝のバス８：15 分発を選んだにも拘らず、大型バスを２台もチャータするほどの繁盛ぶりだ。

バス代 10,000 ペソＰ（１,910 円）。３時間の予定が、悪路のため５時間掛かった。

宿の予約を取らずにカラファテに来たことが悔やまれるほどホテルは何処も満室だった。5 軒走り回ったが確保できず、暑さと疲れでぐったりと道端に座り込んでいると、道路の向こう側から声が掛かった。「shin（信）！宿は見つかったの？」プエルト・ナタレスからバスで一緒だった、イギリス人の高校教師が友人達と手を振っている。私は黙って顔を横に振った。

「私達のロッジへおいでよ。清潔で静かよ」渡りに船と一緒させてもらった。地獄で仏とはこのこと。こんな時は、日本人同士よりも欧米人の方が旅慣れているのか、対応が的確で早い。彼らと一緒の宿は堅牢なログハウスでまだ新しく、木の香りがする。

しかもこの宿ロス・ドス・ピノスは、３泊以上は割引があり 110P（3,335 円）の所 80P（2,425 円）にしてくれた。

しかしながら、１つだけ大問題があった。先人の有難くない置き土産。水洗トイレに「巨大きなウンチ」が残っていて、何度水を流しても流れていかない。悪臭に耐えかねてフロントに部屋替えをお願いしたが、「空室がないので、私達が何とかしましょう」と器具を持った若い男女が２人、ウンチと格闘を始めた。巨大ウンチをちぎっては流し、ちぎっては流し、決着がつくのに何と 45 分も掛かった。

しかし、あの巨大ウンチは誰が生産（？）したのだろう？男？女？　排水溝に入っていかないほど巨大なモノは、日本の神社などで見かける「しめ縄」ほどの太さはあった。

この時は誠に**ウン**が悪かった。

街は観光客で溢れ、軽井沢の繁華街を思わせる愉しげな雰囲気がある。

日中の気温は暖かいが、夜はセーターが必要なくらいに冷え込み、暖房も入る。

待ち焦がれたペリト・モレノ氷河へ

２月 22 日（火）。氷河行きのバスは、ホテルに 8：15 分に迎えに来るのだが、興奮の余り６：45 分と言う早朝に目が覚めた。

カラファテから氷河まで２時間ほどバスに乗る。バスで走行中ガイド達はお客が退屈しないように「マテ茶」をサービスしてくれる。

私は、てっきりバスの中で、drug（麻薬）の呑み回しかとドキドキした。茶飲み茶碗ほどもあるパイプのような入れ物が、実に麻薬っぽく見えたため、「さすが南米は凄い！」と麻薬初体験できる事を、実は嬉しく（？）思ったのだが、麻薬とは無関係の普通の香草にお湯を注いで皆で呑み回しするものであった。香ばしい良い香りであった。

沢山ある氷河の中で、最も美しく雄大な姿を誇るペリト・モレノ氷河は、TV で見る SONY の CM でお馴染だが、実物を見た時は、その美しさと大きさに賛辞の言葉が浮かばない。

冷凍庫から氷を出すと、ピチピチと音がするが、ペリト・モレノ氷河も同様で、巨大なピチピチ音の後、ドドーンと言う落雷のような大音響と共に氷河の崩落が起こる。

客達は、船の上から、或いは張り出した見晴台から、お気に入りの場所に陣取って氷河の大崩落をカメラに収めようと右往左往する。そして、撮れた写真をお互いに自慢しあう。

しかし、ガイド氏の説明に高揚していた私達の気持ちにブレーキが掛かった。

「地球温暖化の影響で、今年は頻繁に氷河の崩落が見られるのでお客は喜ぶが、ここの温暖化は深刻で、数十年後には山肌が見える位置まで後退する可能性がある」と言う。

この説明を耳にしてからは、ピチピチ音は氷河の悲鳴に聞こえ、ドドーンと言う落雷音は、地球の怒りに聞こえて仕方がなかった。

でも、やっぱり凄い！「この美しい氷河を後世にも…との思いはあるのだが、さて今後、私達は日常生活で何をすべきか？」重い宿題を背負わされた。

因みに、ペリト・モレノ１日ツアー代105P（3,885円。バス代、船代、入場チケット代を含む。食事代は含まない。）

氷河のクルーズ船に日本人が…。

ペリト・モレノ氷河が余りにも感動的だったので、翌日は、更にその奥にあるプラウザ氷河、スペガッツィーニ氷河、オネージ氷河と大氷河の中を船で１周するツアーに参加してみた。

ツアー代金223P（8,265円）は、食事代を含まないので、少し高い気もするが、船の中は、大型クルーズ船よろしく、ラウンジもあり、食事やお茶は有料だが、いつでも飲食できるようになっている。

巨大なブルーの氷河が流れる中を、船はゆっくりと進む。１つの氷河としては、ペリト・モレノ氷河が一番大きく美しいのだが、周りの景色が氷河一色になる風景は、ペリト・モレノよりも壮観で迫力があった。

ビルの大きさほどもある巨大氷河も流れていて、その横を船が通過する時、危険はないとは思うのだが、お客からは大きな悲鳴にも似たため息が洩れる。

ツアーの途中、下船して氷河の島の散策も楽しんだ。こんなに寒い島にも、蝶が舞い、小鳥が鳴き樹木も茂って、つかの間の夏を謳歌しているのには驚いた。

「今日は曇りなので少し寒いが、普段はもっと暖かい」と船の乗組員達は教えてくれたが、この日の気温は8℃で、私の住む関東の真冬の気温だ。

日本からの観光客コースにも勿論ペリト・モレノ氷河は旅のハイライトと銘打って組まれているが、殆どのツアーはペリト・モレノを見るだけで帰るのが一般的コース。

だが、この日、この船に日本人らしき私と同年配くらいの小柄な女性が、大勢のチリ人達と一緒に乗っていた。活発な話し振りから中国人かも知れないと思った。

しかし、その女性から「日本から？」と日本語で話しかけられた。予想通り日本人で、アルゼンチンのブエノスアイレス在住で、今回の旅は、街の旅行会社が主催する氷河ツアーに友人達と一緒に参加したのだと言う。

「アルゼンチン国内観光の中でも、この氷河ツアーは一番お金が掛かるツアーなのよ」と教えてくれた。

彼女の名前は富崎治子さんと言い、アルゼンチンに移住して53年。神戸の街も芦屋の家も全て戦争で焼けてしまったうえ、お父様は戦死され、ご家族は途方にくれる戦後の日々だったようだ。

太平洋戦争の敗戦から５年目、お母様の再婚相手である義父様の強い希望で、家族全員でアルゼンチンに移住したのだと言う。その時、治子さんは13歳であったとか。

アルゼンチンでも、常に家族と共に生活しているせいか、53年の外国暮らしにも拘らず、少し外国訛りはあるものの、かなり正しい日本語を話していた。

「日本の繁栄は、新聞やTVで知ってはいるが、移住後53年間、一度も日本に帰国していない」と言う。

それは何故か？「戦前の美しい神戸のイメージが違ってしまうことが恐い」と彼女は言ったが、私にこの気持ちは分からない。

「ブエノスアイレス（アルゼンチン）に来たら連絡するように」と、ご自分の住所と電話のメモを下さった。

訪問した国で、普通の人々の生活に触れることを持って旅の醍醐味としている私にとって、

何よりの楽しみを旅先で又１つ拾った。

しけた街　リオ・ガジェゴス

２月 24 日（木）リオ・ガジェゴスは、世界最南端の街ウシュアイアに行くための通過地点の街で、カラファテから再度マゼラン海峡まで南下したため、真夏なのにかなり寒い。

オフイスで働く人達は、男女とも薄手のウールのスーツを着ている。北欧を思わせるこのこじんまりした街の人々は、道に迷ったりすると目的地まで送り届けてくれるほど親切で優しかった。

この街から観光バスごとフエリーに乗って、黒々としたマゼラン海峡を渡るのが一般的なのだが、シーズン最盛期とあって向こう３日間ウシュアイア行きのバスが全て満員で席が取れなかった。

すでに、このしけた街リオ・ガジェゴスに２泊もしていることから、更に３泊するなら飛行機で…。との思いから、清貧の私が又もや飛行機に乗る羽目に。

バスなら 85P（2,577 円）。で済むところ、飛行機は、130P（4,768 円）。しけた街のホテル代は意外と高く、H プンタ・アレーナス１泊 90P（3,300 円）。を考えれば、チケット代 130P（4,768 円）はむしろ安い。

今時の逞しい日本女性

こんな地の果てで、若い日本女性Ｔ（24 歳）と宿を共にした。

Ｔは南米を旅するために、仕事を辞めて旅に出たのだという。交通手段は、原則自転車で、夜は持参のテントに泊まるという極限まで切詰めた凄い旅だ。

キャンプ場があるところでは、炊事や洗濯が出来るが、ない所では、野宿で、かなり体力を消耗すると言っていた。ここ暫らく野宿が続き、疲労が溜まったので、このホテルに２～３泊して体力の立て直しを図っていたようだ。Ｔ曰く「だから、どんな安宿も、自分にとってホテル泊りは天国なのだ」と。

「野宿で身の危険はないのか？」と尋ねたら、「一度も危険に遭遇していない。こんな格好しているから、男女の区別がつかないのかも…。」との答えであったが、こんなリスクを犯しても南米は魅力があるのかも知れない。

この晩、私はこの逞しい若者の話を聞くために晩ご飯をご馳走した。メニューは、大鍋一杯の肉じゃがとトマト・スープにした。

Ｔは「こんな温かい肉料理を口にしたのは何日ぶりかしら？」と言って大鍋をアッと言う間に空にした。この惚れ惚れするような、凄ましい食べっぷりには終始圧倒された。

彼女もウシュアイアに行くと言っていたが、航空機には乗らず、バスチケットが取れるまで、このしけた街に滞在するようだ。

かかりつけの神様を持たない私が言うのも可笑しいが、南米の旅が無事に終わるまで、神のご加護があることを願うのみだ。

さてさて、いよいよ世界の最南端「魚が美味しい真夏のウシュアイア」へと心が弾む。

支 部 便 り

チェンマイ支部便り

チェンマイ支部長　№54　山口　洋二

新年明けましておめでとうございます。

２０１１年、今年は日本にとり、どんな年になるのでしょうか。

あるいは世界にとり、どんな年になるのでしょうか。

こちらチェンマイは、大晦日のカウントダウンの華々しさとは打って変わって、正月だからといって特別な料理を食べるとか催し物があるわけではなく官公庁・学校が休みという他は、全くいつもの単なる一日の朝が開けたという雰囲気です。

チェンマイの正月は、中国人系の人が多いためむしろ旧正月が、あるいは仏教行事のソンクランの時期が正式な正月になるようで賑やかです。よってこの街の雰囲気はわれわれ日本人にとりましては少し寂しく、物足りませんが、年の初めのこの日は、やはり格別なものがあります。そこで日本のようには行きませんが、チェンマイ滞在者の中には、お雑煮やおせち等を食べたりして、少しは正月らしい真似事をして過ごしている人もおります。

ところで昨年はチェンマイに多くの会員の方々がおいでになり、ありがとうございました。おかげで多くの方々との出会いがあり楽しく過ごすことができました。またほとんど何もお世話をしてないにも関わらず、一度来られた方の多くの方々がリピーターとして、再度チェンマイにおいでになっており、かつ年々来訪者が増えてきておりますのは、面倒見の悪いチェンマイ支部長としては、うれしく思っております。

これも会員の方々がそれぞれ独自にチェンマイの良さを発見して、滞在を十分に楽しまれたからであり、【面倒を余り見ないことが反って良い結果を生んでいるのではないか】と内心思っております。

又特に海外生活経験豊富な方に『最後にたどり着いたところがチェンマイだ。』と言われますと、長年こちらに滞在し、チェンマイしか知らない私にとりましては、『自分の選択は間違っていなかったのだ。』と意を強くさせてもらっております。

まだ一度もチェンマイにお越しになっておられない会員の方で、興味をもっておられる方は是非一度チェンマイにお出でください。そしてチェンマイの良さをご自分の目で、感性で直接感じて下さい。

『百聞は一見にしかず』。南の会の会員にとってこれほどぴったりする言葉は、他にはないと思います。色々体験者から話を伺って、想像を逞しくしても本当の事は分かりません。現地に来てこそ始めて分る事が沢山あります。

しかし行きたいけど『海外に自分達のみで行った経験がなく、初めての地でどの様に行動して良いか判らず・不安だ』という方もおられると思いますが、『案ずるより生むが安し』あれこれ考え・心配するよりまず行動することです。行動すれば何とかなります。行動すれば、そこから結果が生まれ、そして新しい発見があります。【勇気を持ってまず一歩足を踏み出しましょう】会員の皆様方にとりまして今年が良い年でありますよう祈念しております。

マニラ支部便り

マニラ支部長代行　№1269　岩崎　宏

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

早いもので、私、日本を離れてフィリピン共和国に移住し33年目を迎えてしまいました。

その間、日本でのお正月を一度も経験しておりませんで、来年は是非、お正月を帰国して田舎で迎えたい、同窓会にも出席したい、こたつに入ってお袋様のおせち料理でお屠蘇も楽しみたい、そしてうたた寝したい。兄弟揃って一献傾けたいと思っております。そんなの簡単でしょうと思われるかもしれませんが、サービス業に従事して来た私の小さな願い事なのであります。フィリピンのマニラ、セブ、バギオ、ダバオ各支部の会員数、訪問者数が増える事を祈って是非、寒い日本を飛び出して暖かいフィリピンにお越し下さい。

バギオ・パンガシナン支部便り

バギオ・パンガシナン支部長　№227　斎木　一

会員の皆様、新年明けましておめでとう御座います。バギオ・パンガシナン支部　２２７　斎木　一です。

一昨年は台風１７号洪水被害の被災者支援に多大のご協力を頂き、昨年は台風１３号通過時に多くの会員からお見舞いのメールやご心配を賜りました。

何時もながら、本当に有難く、先ずは、その件について御礼申し上げます。

バギオ・パンガシナン支部は、定住会員やＬＳ会員がいないので、現地での会員同士の親睦会などの活動はありません。

昨年は台風１７号の後遺症がまだ残っていた事もあり、支部として訪問延期を御願いし、結果として訪問会員のお手伝いの機会も例年に比べ少ない1年間となりました。

２０１１年度は、また多くの会員の方々に現地でお会い出来そうなので、楽しみにしています。

一昨年から支部名を従来のバギオ支部からバギオ・パンガシナン支部に変更しました。昨年は会への情報提供もパンガシナンが中心になりました。

私自身がパンガシナンに在住し、最近はパンガシナンでのいろいろな活動もあり軸足は完全にパンガシナンになっています。

バギオには出張サービスと言う感触です。短期のバギオ滞在の会員とは、マニラからの往路、途中の私の住むウルダネタでお会いする事が多くなりました。

支部名を変更した所為か、最初からパンガシナン訪問を主に考えられる会員も結構おられます。一緒にボランティア活動に取り組んで下さる会員もいます。

私や私の妻、娘のナオミは今でもバギオが大好きです。日程が合えば、会員のバギオ滞在中に私達もバギオに行き、一緒にバギオを楽しみたいと考えています。

ただ、私の日常生活の中で、平日は娘や通学支援をしている子供達の学校への送迎に多くの時間を割いています。バギオへは週末と言う事になります。その点をご了解下さい。

最近のバギオは欧米系の外国人滞在者が増え、益々国際都市化しています。パンガシナンもリンガエン湾沿いの都市やリゾートに、外人滞在者が目立つ様になりました。

私の住む田舎町ウルダネタも住宅やアパートの賃貸料が安い事や適度に都市化が進んでいる事で、ここ数年目に見えて外人の姿が多くなりました。

何時の日にか、バギオでもパンガシナンでも現地在住の会員で、支部会が開催される事を夢見ています。

パンガシナン滞在の際は、支部会ではありませんが、田舎町の外人クラブのメンバーとの懇親やボランティア活動も可能です。地元の小学校訪問や子供達との交流もフィリピンならではの楽しみです。

２０１１年が、会員の方々との交流が益々深まる１年になる事を期待しています。本年もよろしく御願いします。

ハワイ支部便り

ハワイ支部長代行　№.712　高田　勝弘

会員の皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

元気で健康第一で、ロングステイを楽しみましょう。沢山の方が来島されるのを歓迎します。

ハワイの新年はクリスマスに比べて簡素なものです。言って見れば一部の人はカウントダウンなどを楽しんでおりますが　概して一日だけの休日とかわりません。特に日本のように美味しいご馳走を用意して食べるわけでもないし、お互いの挨拶も簡単です。ただし此の時期、当地には沢山のカナダの方、米国寒冷地からの方が暖を求めて来島され、観光シーズンです。従って物価はさほど変わりませんが12月より3月頃までは居住費が1，5倍になります。もともと高い居住費が更に高くなりますので、此の時期はあまり私たち年金暮らしの者には残念ながら適したロングステイの時期ではなさそうです。

過去数年には多くの会員の皆様が観光端境期の4月、5月、6月に見えて皆でハワイをたのしみました。特に支部が出来てからは多くの方が来島してると感じます。

オアフ島であれば都会的センスもあり、自然もあり、水、空気、風も気持よく、さすがハワイと思わせます。

今年も沢山の会員の皆様が訪れ、にぎやかに、夫々に、ハワイを満喫したいと期待しております。

ＭＡＨＡＬＯ！

関西支部便り

関西支部長　№.891　徳永　卓雄

関西支部の主要な活動を紹介します。

○　昼食サロン会の開催

8月29日（日）12時30分から大阪市北区の「木曽路北新地店」で昼食サロン会を開催しました。新会員2名を含め26名が参加しました。飲む人・飲まない人それぞれ楽しいひと時を過ごし、最後に、各人にこれからの抱負等をお聞きしました。

女性席の様子

○　10月例会の開催

～41名の参加を得て大盛況、懇親会も盛り上がりました～

10月9日（土）13時から「大阪市立生涯学習センター」で定例の例会を開催しました。テーマは副支部長　谷澤誠一さんの「ラオス・タイ・ネパール回遊録」、この指とまれPART Ⅲ「ダバオ」下見ツアー、アンケートの実施結果報告など。久しぶりに41名の参加を得て大盛会でした。17時からいつもの居酒屋「呑」でほぼ全員が参加して懇親会を開催し親睦を深めました。

徳永支部長の挨拶

谷澤副支部長

例会風景

○ 「関西ゆりの会」の第２回親睦行事の実施
～神戸「花鳥園」への遠足～

９月 25 日（土）、絶好の好天に恵まれ総勢１０名の美女軍団が、花が咲き乱れ鳥が飛び交う神戸花鳥園に遠足し初秋の１日を楽しみました。

関西支部　美女軍団の皆さま

○　パソコン教室の開催
～関西支部初の取り組み～

会員からの要望の多かったパソコン教室を開催しました。場所は大阪市立生涯学習センターのメディア教室（パソコン 24 台装備）を借りて、8 月 29 日、10 月 16 日、11 月 18 日の計３回開催、講師は大川泰永さん、十河和夫さんです。内容は初心者向けに、マウスの操作、コピーのしかた、ホームページの検索など基本的なところを指導しました。毎回 15 ～ 20 名の参加があり、大変好評でした。終了後は例によって懇親会へ。

○　ゴルフ会の開催

10 月 22 日、今年度第２回のゴルフ会を兵庫県三木市の「ライオンズカントリークラブ」で開催しました。参加者 10 名

パソコン教室

ラウンド後はクラブハウスでソフトドリンクを飲みながら、チェンマイステイ等の情報交換、来年３月上旬に催行予定の「ダバオ」視察ツアーの話題で大いに盛り上がりました。

ゴルフ会参加の皆さん

○　ハイキング会

11 月 8 日（月）谷澤副支部長をリーダに、大阪市西部の港湾部を回る約 6 キロのハイキング会を実施しました。参加者 10 名。今も残る渡し船に２回乗り、大阪市内の最高地点なみはや大橋から港湾部の眺望を楽しみ、天然温泉「テルメ竜宮」で汗を流し最後は地ビール工房「地底旅行」で打ち上げをしました。

なみはや大橋頂上で

○　ダバオ下見ツアーのご案内

「この指とまれ」第３回として、３月１日～７日をコア日とした、フイリッピン・ダバオの下見ツアーを計画しています。現地集合方式とし、コア日にはダバオの滞在経験豊富な山本嘉雄さんが現地を案内してくれます。参加希望者は関西支部役員までご連絡ください。

（以　上）

東海支部新年号・支部便り

東海支部長　№543　清水　重一

全国、海外、各会員の皆様新年明けましておめでとうございます

新年は如何お過ごしですか。

今年も健康で充実した年を過ごされることをお祈り申し上げます。

我が東海支部の会員の皆様も新年は海外で過ごされる方が多く、中でもチェンマイの人気が高く、年末から続々訪チェンが多いようです、その影響で？東海支部定例会・サロン会も１月はお休みです（例年通り）

さて、昨年は支部最大の行事になりました、新入会員募集の為のタイ観光庁主催のタイ納得セミナー（来場者５００名以上）に参加協力し、会場内にブースを設け参加しました。

事前準備から資料の作成に至るまで支部会員のご尽力でなんとか間に合い、我々のブースに特に多くの人・人で説明を求める人の対応に悪戦苦闘し、嬉しい悲鳴でした。タイ観光庁の井上様、松原マネージャーより支部の対応の良さに賛同し、大変感謝の言葉をいただき私ども言葉も出ませんでした。東海支部として参加できたことを誇りに思います。

また、入会の問合せも想像以上にあり先が楽しみです。

また、NPO 法人として大切な使命である社会的貢献が少しでも出来れば幸です。

自発的奉仕（ボランティア）による海外、国内での会員の膨大な蓄積した情報は財産であります、その情報を活用し自分の力で楽しく暮らす場を開拓できる集まりになれば素晴らしい南国の会になることに間違いはありません。

その他支部の活動としまして、下見体験（ハワイ・台湾パートⅢ）、ゴルフコンペ、定例会、サロン会等会員のご協力の基、予定通り消化しましたことに、謹んで御礼申し上げます。

今年は役員の改選年に当たりますので、次の方にバトンを渡し時間の許す限りその土地で暮らす用に旅を目標にしま～～す。！！

本年も南国暮らしの会が情報交換を通し益々楽しい会に成長、発展することを祈念し、新年のご挨拶といたします。

（タイ納得セミナー支部スタッフ）

関東甲信越支部便り

関東甲信越支部長 №1125 佐々木 一信

明けまして　おめでとうございます

国内外混沌とした世の中ですが、早く風格の有る日本になってもらいたいですね。

関東甲信越支部では毎月サロン会、を開催しLS 体験談や情報交換を行っております。又有志による LS 下見ツアーも行われています。

昨今多くの会員がチェンマイはじめ各国、各地域にシーズンステイ、短期ステイに行かれており、海外支部のお世話役の方に厚く御礼もうしあげます。こんな素晴らしい会は有りませんよね！

これからも明るく、楽しい、仲良しクラブの運営に努めます。

皆様のご指導を宜しくお願い申し上げます。

北海道支部便り

北海道支部長　No.1009　佐藤　治己

北海道支部長　No １００９ の佐藤治己です。

全国の会員の皆様、そして暖かい南の国でお過ごしの皆様､明けましておめでとうございます。

この時期の北海道は雪に埋もれており、今はただ身体に優しい南国のからの暖かい便りを楽しんでおります。

昨年の北海道支部は６月の支部総会と１０月の情報交換会及びミニサロン会と称してゴルフコンペや女性会員による「食べある記？」をそれぞれ２回実施して大変好評でした。

また支部総会の時期にたまたま来道中の会員のが参加され貴重な情報を頂き、懇親会では更に中身の濃い情報交換が出来て大変有意義な時を過ごしました。（女性サロン会の状況などは南の会ＨＰに更新してありますのでご覧下さい。）

さて、昨年の北海道は異常に暑い日が続き、爽やかな夏のイメージとはいきませんでしたがそんな北海道に南国暮らしの会員数名の方が体験移住をされました。

寒い冬は南国で、暑い夏は爽やかな北海道で過ごす渡り鳥的な生活は如何でしょうか？

北海道の各市町村はそんな皆様を歓迎いたしております。

そして支部総会などが開催される時期に来道される場合には是非、参加して頂き貴重な情報交換の場にしたいと考えております。（尚、体験移住などの情報は下記を参考にしてください。）

くらすべ北海道
http://www.kurasube.com/krsb_top.php?MENU=26#
ちょっと暮らし
http://www.dankai-iju.jp/taiken.html
（北海道支部の大平様が紹介されましたＨＰから）

この原稿を書く頃の家々の庭木は筵や荒縄を身にまとい始めて「しばれよ、さ来い！」と長く厳しい季節を迎える準備をしております。

丁度その頃、ガアガアと挨拶しながら南の方へ飛んでいった白鳥達のように私も早く暖かい所へ行きたかったのですが今年はもう少し先になるようです。

今年もまた、南の国でお会いする機会がありましたらよろしくお願い致します。

チェンマイ駅

台北 日本時代の建物

部　会　伝　言　板

会　報　部　会

担当理事　№１１２５　佐々木　一信

あけまして　おめでとうございます

これからも、会報作りに皆様の参加、協力をお願い致します。会報委員は全員素人のボランティアです。毎号喧々諤々議論をし、誌面作りをしていますがナカナカ皆様が楽しく役に立つ企画は凡人には限界も感じます。

会報とMLが全国、海外の全会員を繋ぐツールです。興味のある方、時間がある方‥‥経験、地域は問いません。是非　会報委員会に参加してみませんか！結構楽しいですよ　常時受け付けております。最寄の理事、会報委員支部役員にお申し出下さい。

会報発送作業

総　務　部　会

担当理事　№１２４９　大塚　眞一

会報春・夏号以降の総務部門の主な活動

＊平成21年度第７回理事会

平成22年5月22日開催

出席：理事15名、委任状1名、監事2名

審議・報告事項

１）29日開催の役員・支部長会議案、準備。

２）30日総会準備及び役割分担。

３）22年度役員業務分担の確認。

４）委員会構成案、次回理事会にて決定。

５）22年度スケジュール案検討。

＊平成22年度役員・支部長会

平成22年5月29日開催

出席：理事13名、監事3名、次期理事6名

宮嵜相談役、磯崎顧問

稲田聰九州支部長、徳永卓雄関西支部長、

清水重一東海支部長、工藤俊一北海道支部

神俊男東北副支部長

審議・報告事項

議事録は会報・前号に掲載。

＊平成22年度　定期総会

平成22年5月30日開催

議事録は会報・前号に掲載。

＊平成22年度第１回理事会

平成22年6月13日開催

出席：理事10名、委任状7名、監事1名

審議・報告事項

１）理事長より業務遂行の協力要請。

２）委員会委員の決定（会報・前号に掲載）。

３）平成22年度理事会スケジュール決定。

４）平成22年度事業計画の確認。

５）各理事より業務引継ぎ状況報告。

＊諸官庁(法務局・東京都)届書提出

平成22年6月9日

理事の退任と就任及び財産の変更届提出。

＊変更事項

1）理事業務の軽減のため、調査部会・厚生部会

を廃止する。
2）支部推進部会を廃止し、支部推進委員会を総務部会に開設する（永島和雄委員長）。
3）支部長交代
九州支部長　　№ 581 朝永　清寿
北海道支部長　№ 1009 佐藤　治巳

＊平成 22 年度第 2 回理事会

平成 22 年 10 月 3 日開催
出席：理事 16 名、委任状 1 名、監事 2 名
審議・報告事項
1）理事長より定款細則の確認のため必携配布
2）期央会計収支報告
予算の収支より大きく悪化することはなく（62%）予算の見直しをしないことを了承。
3）当会のホームページへのアクセス回数が昨年は７０００回から９９００回に増加しているのでより改善したい旨の提案あり。
4）支部長交代に伴う選任について
ハワイ支部長代行　№ 712 高田勝弘
5）経理担当岩井理事より経理関係口座についての現状と今後の検討課題が提議された。

友好団体紹介コーナー

★財団法人ロングステイ財団
http://www.longstay.or.jp
★チェンマイロングステイライフの会
（ＣＬＬクラブ）
http://cll.thaijp.net/
★ワールドステイクラブ（ＷＳＣ）
http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/
★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPURKL
（クアラルンプール）日本人会
http://www.jckl.org.my/
★北ルソン日本人会（ＪＡＮＬ）
http://janl.exblog.jp/
★バンコク日本人会
★西豪州日本クラブ

編　集　後　記

明けましておめでとうございます

今号は創刊50号で創刊号の表紙を入れました。当時が甦った先輩会員もいたのではないでしょうか。初心を思い出し、楽しく熱く燃えた会報に 100 号を目指していきたいと思います。リタイアメントビザ特集、一般投稿に参加いただいた多くの皆様に御礼申し上げます。次号は５月連休明け発行を目指して、＃１０１７光城保之さん　＃５１３青木方子さんが担当いたします。

これからも皆様の積極参加、ご指導をお願い致します。

№1125　佐々木一信　№1309　青木一義

ダバオ 日系人会

南国暮らしの会　支部一覧

2011 年 1 月現在

支　　部　　名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	1009	佐藤 治己	ja8satoh@snow.ocn.ne.jp
東北支部	498	氏家　孝	takashiujiie3322@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1125	佐々木 一信	gogo.k.sasaki@kvf.biglobe.ne.jp
東海支部	543	清水 重一	shimizu434@mwd.biglobe.ne.jp
関西支部	891	徳永 卓雄	michitac1938@gmail.com
九州支部	581	朝永 清壽	ktomo581@yahoo.co.jp
マニラ支部	※1269	岩崎　宏	iwasaki@friendshipmanila.com
セブ支部	※ 636	鶴岡 照郎	telu@wave.plala.or.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	斎木　一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	－		
バンコク支部	－		
チェンマイ支部	54	山口 洋二	obito2006kyotai@yahoo.co.jp
クアラルンプール支部	1050	野村 晃正	sun1403jp@yahoo.co.jp
ペナン支部	1020	松下　茂	yoko-papa@hotmail.co.jp
ハワイ支部	※ 712	高田 勝弘	toro21@richi―ho.ne.jp
ゴールドコースト支部	※ 586	磯崎 興志	isozakiks586@w4.dion.ne.jp
パース支部	－		

※　は支部長代行

写真ご提供有難う御座います。

表紙の写真は、No.489　加藤　久子 さんからの提供です。

裏表紙の写真等は、執筆者からのものを除くと、加藤久子 さん、および、会報編集委員会からの提供です。

平成２３年度会費納入のご案内

平成２３年度の継続会費納入をご案内します。

継続年会費：５,０００円　　納入期限：平成２３年３月３１日

○本会の２３年度は平成２３年４月１日より１年間です。会則により、会費は年度会費制で途中入会者に対する月割り計算はいたしておりません。２２年度に新規加入の方も加入時期によらず、２３年度会費の納入をお願いします。

○同封の郵便振替用紙にてお振り込み下さい。振込料金は各自ご負担願います。

郵便振替口座番号：０－０１７０－７－２４６８２

加入者名：「南の会」

お願い（１）：郵便振替の払込取扱票の「ご依頼人」欄に郵便番号、住所、氏名、電話番号を**楷書**で明確にご記入下さい。また、**通信欄に必ず会員番号をご記入下さい。**

○海外居住者で郵便振替の利用が困難な方は**ゆうちょ銀行**口座への振込をお願いします。

ゆうちょ銀行　　金融機関コード：９９００

店番：０１９　　店名：〇一九店（ゼロイチキュウ店）

預金種目：当座　口座番号：００２４６８２

受取人名（カナ氏名）：ミナミノカイ

ゆうちょ銀行の口座は「当座」です。「普通」口座ではありません。ご注意願います。

（振込に際し支店名選択は、画面のあいうえお一覧から「ゼ」、または「セ」を選んでください。店名が出ます。振込画面は銀行により異なります）

お願い（２）：銀行振込に際し、**振込人氏名の先頭または後に会員番号を追加記入**してください。

○会費納入と会員資格、総会表決権の取扱について

・３月３１日の納入期日までに継続会費納入の方は、２３年度会員として総会表決権を有します。

・期日までに会費未納入の方へは、一回納入を催促致します。さらに５月１５日までに納入されない場合は退会として扱い、会員名簿およびメーリング・リストから削除致しますのでご注意願います（細則９条 (5) 項)。また、会報も送付しません。

・９月３０日までは会費納入により会員資格復活が可能です。この場合は入会金は不要です。１０月１日以降は新規入会の扱いで入会金、会費の納入が必要です。

・新規会員で会費を２３年度として納入された方は、４月１日からの会員資格となりますので、２３年度総会での表決権はありません。

○やむを得ず会費納入が遅れる方へ

海外滞在中などで期日までに振込が困難な方は、下記アドレスへ件名を「会費納入遅延」としてご連絡ください。　keiri.iinkai@gmail.com

納入遅延の連絡を条件に特例として会報春季号をお送りします。連絡が無い場合は会員名簿およびメーリングリストからの削除を行います。

ただし、総会議決権については規定通り失効といたします。

「南国暮らしの会」からのお勧め

＊自己責任 ＊納得の上 ＊自己決定

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

【連絡先一覧】

（1）ＭＬメールアドレスの変更　mail.iinkai@gmail.com
（2）会員関係（住所変更など）　kaiin.bukai@gmail.com
（3）経理関係（会費、名刺ロゴマークなど）　keiri.iinkai@gmail.com
（4）その他一般　home@minaminokai.com
（メールには用件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。またＭＬメールアドレス変更の場合は、ウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を追加してください）

［編集委員］

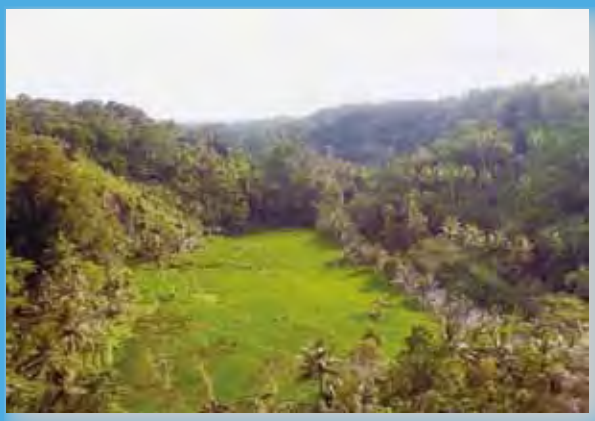
No.1125	佐々木　一信	No. 750	小松　勝正
No. 470	細田　良子	No. 513	青木　方子
No.1017	光城　保之	No.1041	中西　岩夫
No.1067	手石方　了成	No.1230	吉野　正博
No.1309	青木　一義		

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者　特定非営利活動法人（ＮＰＯ法人）
「南国暮らしの会」
©minaminokai

理事長　馬場　章介
〒140-0002　東京都品川区東品川3-22-20-1208
http://www.minaminokai.com/
E-mail: info@minaminokai.com

投稿写真コーナー



バリ島

日本最南端 波照間島

台北国際花博